

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-3

< 第22週 > 咽頭結膜熱・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・感染性胃腸炎・マイコプラズマ肺炎 - 定点当たり報告数は過去5年間の同時期と比較してかなり多い



注目すべき感染症
P.4-5

< 咽頭結膜熱 > 本年の各週の定点当たり報告数は、過去10年間の当該週と比較して最大値となっている
< A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 > 例年、これから夏にかけては減少する時期であるが、今後の動向には注意を要する



病原体情報
P.6-8

ヒトから検出されているVero毒素産生性大腸菌 2004年 / 咽頭結膜熱患者から分離されているアデノウイルス 2004年 / ヘルパンギーナ患者から検出されているウイルス 2004年



速報

今週は該当記事はありません



海外感染症情報
P.9

米国でのサルモネラ菌 *Salmonella* Enteritidis による集団食中毒 / スーダン南部でのエボラ出血熱流行 - 更新 / ニジェールでのコレラ



感染症の話
P.10-14

< RSウイルス感染症 > 特に乳幼児期において非常に重要な病原体であるとともに、臨床上、公衆衛生上のインパクトは大きい



読者のコーナー
< 今週は該当記事はありません >



グラフ総覧(22週)
P.15-21



22週のデータ
P.22-31



発生動向総覧

*「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正(11月5日施行)により、対象疾患、分類が一部変更されました(2003年第43号「速報」参照)

第22週コメント 6月3日集計分

全数報告の感染症

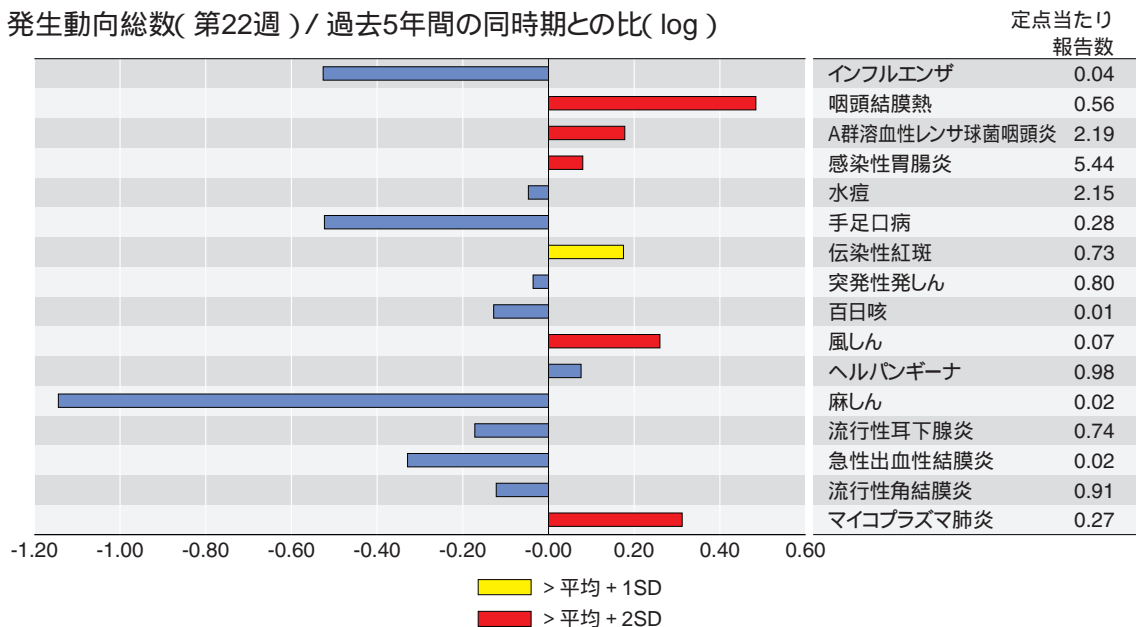
注意:これは当該週に診断された報告症例の集計です。しかし、迅速に情報還元するために期日を決めて集計を行いますので、当該週に診断された症例の報告が、集計の期日以降に届くこともあります。それらについては、発生動向総覧では扱いませんが、翌週あるいはそれ以降に、巻末の表の累積数に加えられることになります。宜しく御理解下さい。

- 1類感染症: 報告なし
 - 2類感染症: 細菌性赤痢 6例(推定感染地域: 国内1例、インド1例、インド/シンガポール1例、バングラデシュ1例、マレーシア1例、インドネシア1例)
 - 腸チフス 1例(疑似症)
 - パラチフス 3例(推定感染地域: インド2例、カンボジア1例)
 - 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症 97例(うち有症者54例)
 - 報告の多い都道府県: 岡山県(25例)、東京都(11例)、福島県(8例)、福岡県(7例)
 - 血清型・毒素型: O26 VT1(33例)、O157 VT1・VT2(32例)、O157 VT2(25例)、O157 VT1(2例)、O26 VT1・VT2(1例)、O26 VT2(1例)、その他(3例)
 - 年齢: 10歳未満(41例)、10代(12例)、20代(12例)、30代(10例)、40代(8例)、50代(7例)、60代(1例)、70歳以上(6例)
 - 4類感染症: オウム病 4例(推定感染源: インコ3例、不明1例)
 - つつが虫病 3例(秋田県、福島県、鹿児島県)
 - 日本紅斑熱 2例(徳島県、愛媛県)
 - マラリア 2例(熱帯熱1例(推定感染地域: インドネシア)、三日熱1例(推定感染地域: パキスタン))
 - レジオネラ症 6例(50代(3例)、60代(2例)、70代(1例))
 - E型肝炎 1例(推定感染地域: 国内、推定感染経路: 猪肉の喫食)
 - 5類感染症: アメーバ赤痢10例(推定感染地域: 国内5例、エジプト/ケニア2例、不明3例)
 - ウイルス性肝炎4例
 - B型3例(推定感染経路: 性的接触2例、不明1例)
 - C型1例(推定感染経路: 不明)
 - クリプトスポリジウム症 1例(推定感染地域: インド)
 - 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例(69歳)
 - 後天性免疫不全症候群 11例(無症候5例、AIDS 5例、その他1例)
 - 推定感染経路: 性的接触9例(異性間4例、同性間5例)、不明2例
 - 推定感染地域: 国内9例、不明2例
 - 梅毒 3例(早期顕症1期1例、無症候2例)
- (補)他に、ライム病1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例の報告があったが削除予定。また、遅れ報告として急性脳炎1例(ムンプスウイルス(3歳))の報告があった。

定点把握の対象となる5類感染症

全国の指定された医療機関(定点)から報告され、疾患により小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)に分かれています。また、定点当たり報告数は、報告数/定点医療機関数です。

発生動向総数(第22週) / 過去5年間の同時期との比(log)



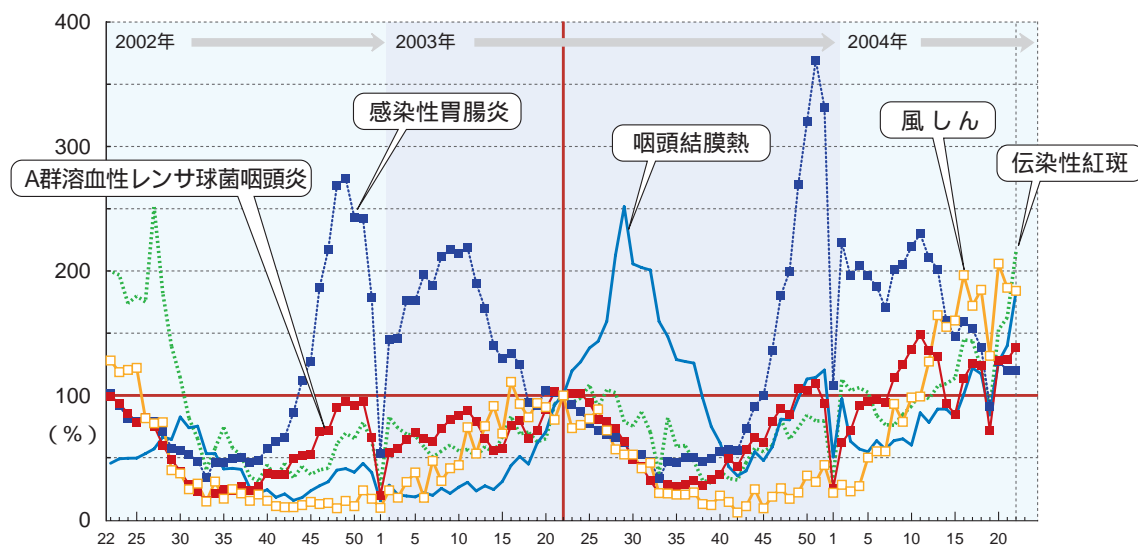
当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

小児科定点報告疾患：咽頭結膜熱の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してかなり多く、都道府県別では福井県(2.8)、宮崎県(2.1)が多い(「注目すべき感染症」参照)。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してかなり多く、都道府県別では山形県(5.5)、新潟県(5.2)が多い(「注目すべき感染症」参照)。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は微減したが、過去5年間の同時期と比較してかなり多く、都道府県別では大分県(11.5)、福井県(10.8)、宮崎県(10.8)が多い。手足口病の定点当たり報告数は第20週から緩やかに増加しており、都道府県別では沖縄県(2.0)、兵庫県(1.9)が多い。伝染性紅斑の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してやや多く、都道府県別では新潟県(2.3)が多い。風しんの定点当たり報告数は前週と同値であるが、過去5年間の同時期と比較してかなり多く、都道府県別では栃木県(0.7)、群馬県(0.5)、大分県(0.4)が多い。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は増加し、都道府県別では福井県(5.6)、愛媛県(5.3)が多い。RSウイルス感染症は、ゼロ報告を含めて33都道府県から報告がなされ、報告数は合計29例であった。

眼科定点報告疾患：流行性角結膜炎の定点当たり報告数は第3週からほぼ横ばいで推移しているが、都道府県別では沖縄県(10.8)が非常に多い。

基幹定点報告疾患：マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してかなり多く、都道府県別では新潟県(1.4)、山形県(1.4)、長野県(1.2)が多い。

主要疾患の過去2年間の週別定点当たり報告数の動き(第22週)



2003年第22週の定点当たり報告数を100%として各週の報告数値を換算し、主要疾患の過去2年間の増減を表している。



注目すべき感染症

咽頭結膜熱

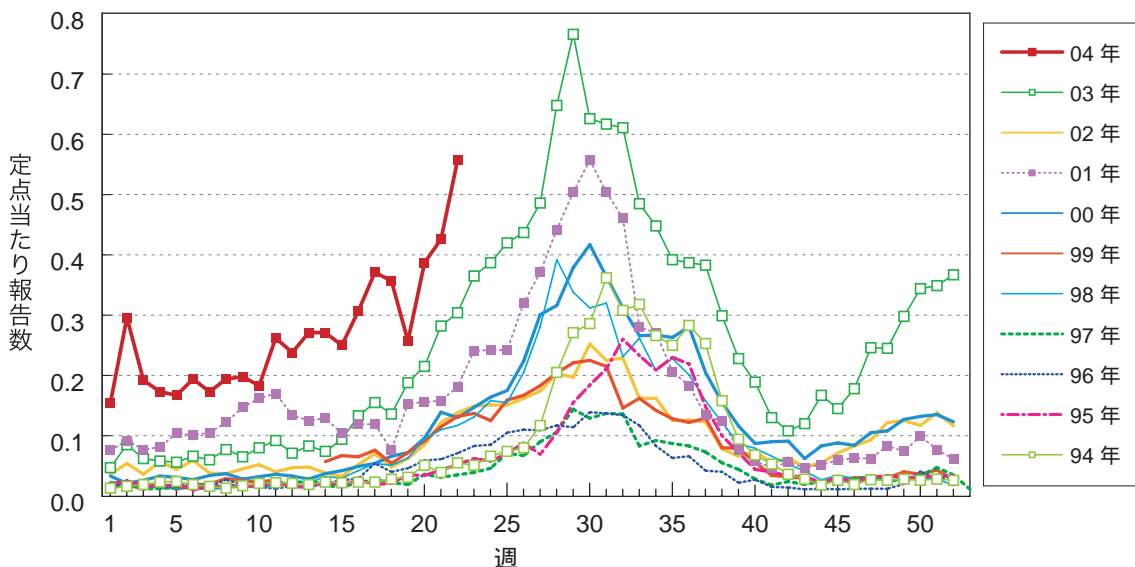
2004年の咽頭結膜熱の定点当たり報告数は、過去10年間の中でも最も多かった昨年と比較しても、さらに多い状態で推移している。本年の各週の定点当たり報告数は、過去10年間の当該週と比較して、第1週から継続して最大値となっている(図)。第22週に定点当たり報告数が多かった都道府県は、福井県(2.8)、宮崎県(2.1)で、福島県、富山県、石川県、岐阜県、奈良県、和歌山県、徳島県の各県でも1.0を超えている。

本疾患はアデノウイルスによる感染症で、発熱、咽頭炎、眼症状を主とする。プールでの感染もみられることからプール熱とも呼ばれる。夏季に流行する疾患であるが、2000年以降には、それ以前にはなかった冬季での増加傾向が見られ、特に昨年から本年にかけてその傾向が顕著であった。罹患年齢は従来から学童年齢が主とされるが、昨年の感染症発生動向調査によると1～5歳の各年齢がそれぞれ13～16%で、合わせて全体のほぼ4分の3を占めていた。本年第22週までの報告でもほぼ同様であるが、2歳以下の割合がやや増加している。

感染経路は通常飛沫感染であるが、プールでは結膜からの感染や経口的な感染も考えられる。症状としては5～7日の潜伏期の後に、発熱、頭痛、食欲不振、全身倦怠感、咽頭痛、結膜充血、眼痛、羞明、流涙、眼脂などの症状があり、それらが3～5日間程度持続する。基本的には予後の良い良性の疾患であり、脱水を防ぐなどの保存的な治療が中心となる。

過去10年間、流行のピークは第28～32週であるので、今後さらに増加すると考えられ、注意が必要である。前述のように、プールを介しての流行もあることから、プールの水の適切な消毒が大切である。症状がある時にはプールに入らないことはもちろんであるが、症状が消失したあとも長期間糞便中にアデノウイルスが検出されることもあるので、プールに入る前にはシャワーなどでおしりをよく洗い、また出たあとには目をよく洗うことを忘れないよう、日常から心がけることが必要である。

図. 咽頭結膜熱の過去10年間の週別発生状況(2004年第22週)

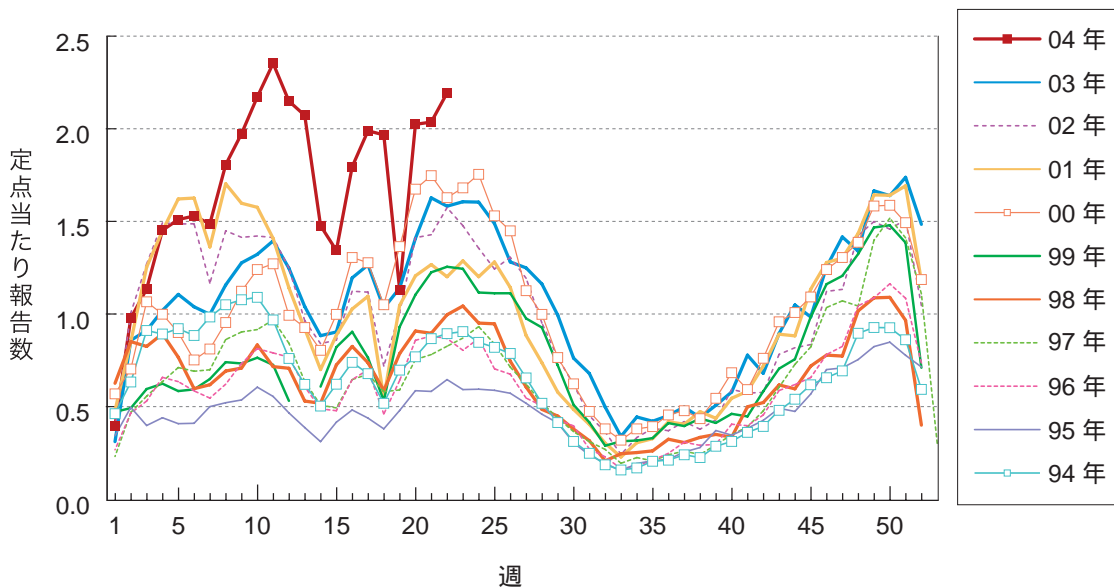


A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

A群溶血性レンサ球菌は、菌の侵入部位や組織によって多彩な症状を引き起こす。日常よくみられる疾患として、上気道炎(急性咽頭炎など)や化膿性皮膚感染症(膿痂疹など)がある。これら以外にも中耳炎、肺炎、関節炎、骨髓炎、髄膜炎などを起こす。また、菌の直接の作用ではなく、免疫学的機序を介してリウマチ熱や急性糸球体腎炎を起こすことが知られている。これらの疾患のうちA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生動向は、感染症法に基づき、全国約3,000カ所の小児科定点医療機関から毎週報告される患者数により把握されている。本疾患の報告数は、迅速診断キットの普及などから近年増加していたが、昨年までと比較して本年は非常に多く推移している(図)。第22週に定点当たり報告数が多かった都道府県は、山形県(5.5)、新潟県(5.2)で、北海道、富山県、山梨県、鳥取県、愛媛県でも3.0を超えている。例年、春から初夏にかけてと冬季のふたつの時期に報告数のピークが認められ、これから夏にかけては減少する時期であるが、本年の報告数は多いので、今後の動向には注意を要する。

感染経路は主に飛沫感染であるが、時に食品などを介しての経口感染により、家庭や学校などの集団での感染もみられる。年齢別では4~6歳の報告が多く、これは従来の傾向と変わらない。

図 . A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の過去10年間の週別発生状況 (2004年第22週)





病原体情報

* グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。

各都道府県市の地方衛生研究所(地研)からの検出報告です。週別の報告数は、病原体が分離・検出された検体の採取日による週ごとの報告数です。地域別の報告数は、その地域に所在する地研からの総報告数を都道府県別に示しています。

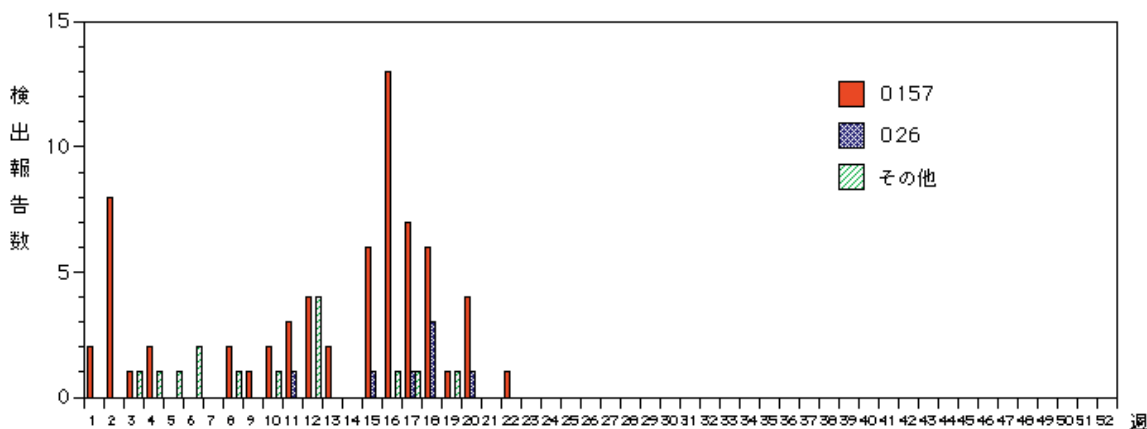
(2004年6月4日現在報告分)

ヒトから検出されているVero毒素産生性大腸菌 2004年

検出総数は86件で、うちO157が65件、O26が7件、その他の血清型が14件報告されている。第15、16週に石川県からO157(VT2)が計8件報告されている。これらは散発または家族内発生事例からの報告であるが、いずれも同一のPFGE型を示しており、福井県、岡山県、香川県の散発例からも同タイプの菌が検出されている(IDWR2004年第16号注目すべき感染症P.10参照)。また、第16、17週に三重県の福祉・養護施設で起きた集団発生事例からO157(VT1&2)が7件報告されている。

第20週以降(5/10 ~)では、O157が第20週に三重県2(いずれもVT2)、岩手県1(VT1&2)、京都府1(VT2)、第22週に大阪府1(VT1&2)、O26が第20週に徳島県1(VT1)で、いずれも散発または家族内発生事例からの報告である。

週別Vero毒素産生性大腸菌検出報告数、2004年 (病原微生物検出情報: 2004年6月4日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を圖に示した。



Infectious Agents Surveillance Report

咽頭結膜熱患者から分離されているアデノウイルス 2004年

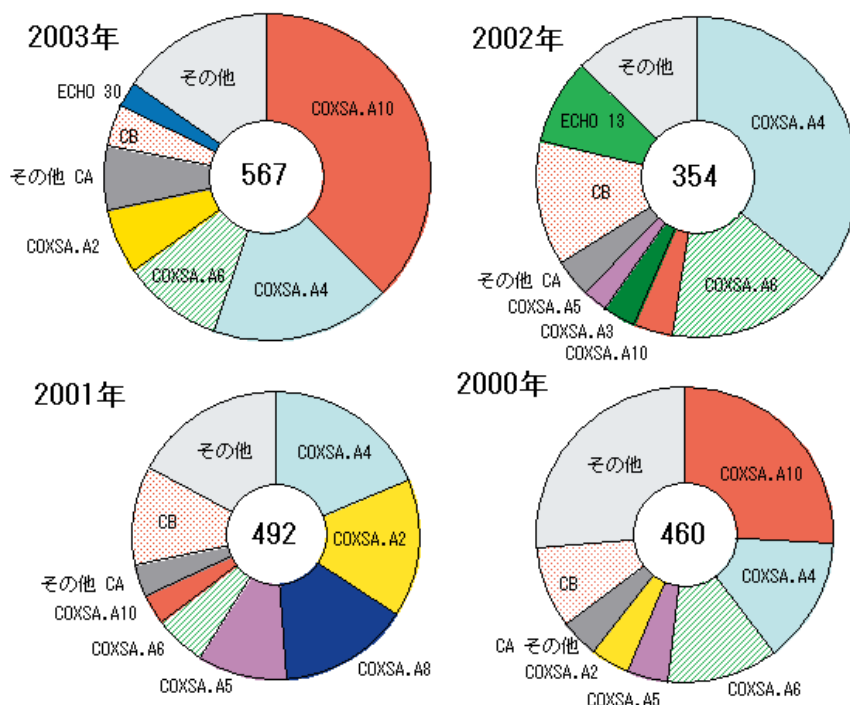
年初よりアデノウイルス3型(Ad3)の報告が目立っており、これまでに40件(宮城県7、兵庫県5、広島県5、千葉県4、愛知県3、東京都、新潟県、長野県各2など)が報告されている。次いでAd2が14件(静岡県3、高知県3、愛知県、兵庫県、広島県各2、長野県、島根県各1)、Ad1が6件(広島県4、長野県、島根県各1)、Ad5が5件(長野県3、広島県、福岡県各1)、Ad4が2件(宮城県、愛知県各1)、Ad6が1件(福岡県1)報告されている。

ヘルパンギーナ患者から検出されているウイルス 2004年

昨年(2003年)は、A群コクサッキーウイルス(CA)10型が212件で最も多く、次いでCA4が102件の報告であった。CA10は2000年以来3年ぶりの流行となり、IDWR2003年第44号病原体情報P.7参照)2003年第26週をピークとして、第19週から第40週にかけて多数の検出が報告された。また、CA4は第24週から検出報告が増加し始め、秋から初冬にかけても検出報告が続いた。

本年(2004年)は、CA4が3件(島根県、高知県、新潟県各1)、CA2が2件(福岡県、島根県各1)、CA6が1件(兵庫県)、CA10が1件(高知県)報告されている。

ヘルパンギーナ患者から検出されたウイルス、2000～2003年
(病原微生物検出情報: 2004年6月4日現在)

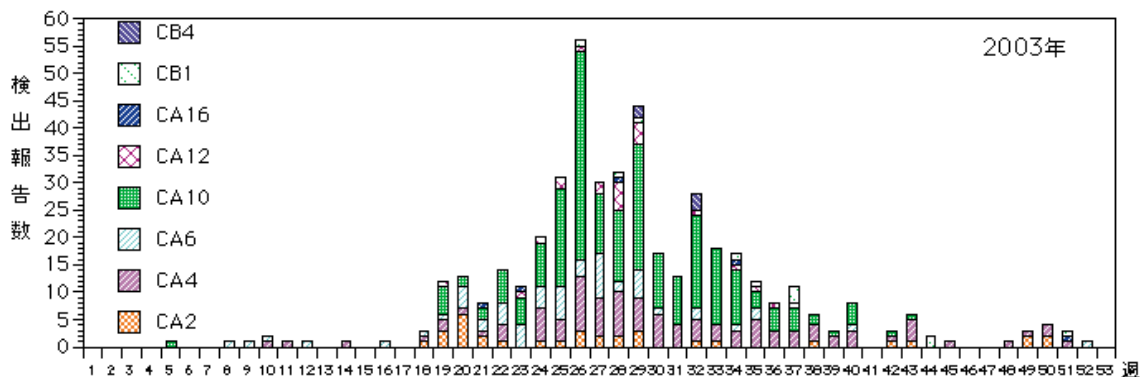
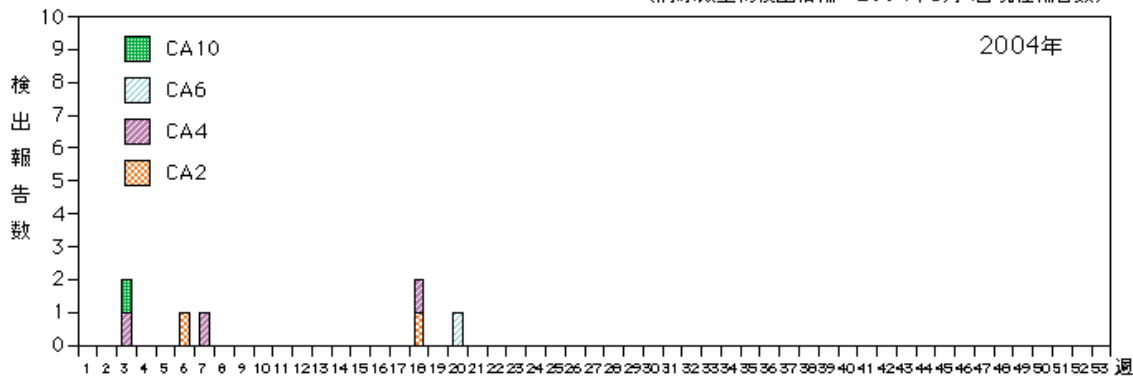


各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した



週別ヘルパンギーナ患者からの主なコクサッキーウイルス検出報告数、2003年&2004年

(病原微生物検出情報: 2004年6月4日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を圖に示した。



Infectious Agents Surveillance Report



海外感染症情報

* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

米国でのサルモネラ菌 *Salmonella* Enteritidisによる集団食中毒

WHO/CSR 2004年6月2日

パルスフィールドゲル電気泳動(PFGE)で特有の同一パターンを示すサルモネラ菌 *Salmonella* Enteritidis(SE)による集団食中毒が米国で発生し、天然生アーモンドが原因と突き止められた。

本日までに、2003年3月 ~ 2004年4月に発症した32名の患者が特定された。これらのアーモンド(米国カリフォルニア州Paramount Farms製)は複数のブランド名にて米国全域で販売され、中国、台湾、韓国、フランス、イタリア、日本、マレーシア、メキシコ、英国にも輸出された。

米国FDAは製品のリコールを指示し、また輸出された各国へ情報提供を行った(より詳しい情報は、FDAのホームページ: <<http://www.fda.gov/>>を参照されたい)。

米国内の複数の保健当局が、現在進行中の調査に参加している。

アーモンドに関連したサルモネラ症集団発生は稀であり、(加熱などの)処理をしない生のアーモンド摂取にのみ関連している。

スーダン南部でのエボラ出血熱流行 - 更新

WHO/CSR 2004年6月7日

2004年6月6日現在、Yambio郡の保健当局によると、スーダン南部のWestern Equatoria地方のYambio州でエボラ出血熱により合計28名の患者が発生し、そのうち7名が死亡した(致死率は25%)。能動的サーベイランスと接触者追跡調査が強化され、全体で124名の接触者が追跡中である。

隔離病棟では、訓練を受けた看護スタッフにより万全の体制が敷かれている。個人防護や、検体採取、検体輸送、面会のための個人防衛に必要な追加器材が到着している。

社会的動員のための特別チームが組織され、訓練されている。本疾患の感染経路や、必要な予防手段に関する重要な注意事項が村中に周知された。

ニジェールでのコレラ

WHO/CSR 2004年6月2日

ニジェール保健省は、Tillabery県Ayorou市で2004年5月3日から5月17日の間に、コレラ患者が合計で137名発生し、このうち5名が死亡したと報告した。

検査により、コレラ菌エルトル小川型が確認された。今回の流行はこの地域での大雨に関連しており、また、交易のためマリのGao州やTimbuctu州とニジェールのTillabery地方との間を、ニジェール川沿いに人が移動することと関連している。

WHOの支援を受け、保健省はこの地域で、市場の場所の制限や、飲用水の安全に関する衛生教育活動を行うなどの流行対策を行っている。



感染症の話

RSウイルス感染症

Respiratory syncytial virus(RSV)は年齢を問わず、生涯にわたり顕性感染を起こすが、特に乳幼児期において非常に重要な病原体であり、母体からの移行抗体が存在するにもかかわらず、生後数週から数カ月の期間にもっとも重症な症状を引き起こす。また、低出生体重児や、あるいは心肺系に基礎疾患があったり、免疫不全のある場合には重症化のリスクが高く、臨床上、公衆衛生上のインパクトは大きい。

疫学

RSV感染症は世界中に存在し、地理的あるいは気候的な偏りはないが、特徴的なことは、いずれの地域においても幼弱な乳幼児でもっとも大きなインパクトがあることと、毎年特に都市部において流行を繰り返すことである。流行は通常急激な立ち上がりを見せ、2～5カ月間持続するが、温帯地域においては冬季にピークがあり、初春まで続く。本邦においても、11～1月にかけての流行が報告されている。熱帯地域では雨期に流行を見ることが多い。

小児の細気管支炎や肺炎など、下気道疾患による入院数の増加のほとんどは、RSVの活動性と一致すると考えられている。もちろん、A型インフルエンザウイルスも同時期に小児における気道疾患の増加する原因となるが、ピークは常に入院の増加につながるとは限らず、ほとんどの場合は、RSV感染症とインフルエンザの流行のピークは一致しないとされる。

RSVは乳幼児における肺炎の約50%、細気管支炎の50～90%を占めると報告されており、より年長の小児においても気管支炎の10～30%に関与していると考えられている。一方、呼吸器症状のない患者から分離されることは滅多にない。通常、すべての新生児では母体からの移行抗体が母体と同レベル認められるが、徐々に減少し、7カ月以降に検出される抗体は通常、生後の自然感染によるものである。しかしながら、血中で検出される抗体は即座に感染防御を意味せず、抗体が存在している生後6カ月以内でもっとも重症化する。最初の一年間で50～70%以上の新生児が罹患し、3歳までにすべての小児が抗体を獲得する。肺炎や細気管支炎などのRSVによる下気道症状は、ほとんどの場合は3歳以下で、入院事例のピークは2～5カ月齢にあるが、最初の3～4週齢では比較的少ない。また、年長児や成人における再感染は普遍的に見られるが、重症となることは少ない。

病原体

RSVはParamyxovirus科のPneumovirus属に分類されるエンベロープを持つRNAウイルスであり、直径80～350nmの球形、あるいはフィラメント状を呈する。RSV感染により症状を起こす自然宿主は、ヒト、チンパンジー、ウシであるが、無症状の山羊や羊からも分離される。本ウイルスは環境中では比較的不安定であり、凍結融解、熱(55℃)、界面活性剤、クロロフォルム、エーテルなどで速やかに不活化される。遺伝子配列はすでに決定されているが、分離株間でかなりの差違があり、大きくA型とB型の二つに分類できる。主要な違いは、もっとも大きな表面の糖タンパクであるG蛋白に存在する。一般にRSVの流行では、これらの二つの型が同時に認められるが、地理的、季節的にこれらの比率は様々であり、これがそれぞれの流行において臨床的なインパクトが異なる原因の一つと考えられており、一般にA型の方が重症になるといわれている。

RSVは環境中では比較的不安定ではあるものの、特に家族内では効率よく感染伝播することが知られており、乳幼児とより年長の小児のいる家族の場合には、流行期間中に家族の44%が感染したとする報告もある。概ね家族内に持ち込むのは、軽症の上気道炎症状を来した学童年齢の小児である。感染経路としては大きな呼吸器飛沫と、呼吸器からの分泌物に汚染された手指や物品を介した接触が主なものであり、特に濃厚接触を介して起こる。

臨床症状

RSVの初感染は常に顕性であるが、軽症の感冒様症状から重症の細気管支炎や肺炎など下気道疾患に至るまで、様々である。しかしながら、初感染においては下気道疾患を起こす危険性は高く、69%の乳児が生後最初の一年間でRSVに罹患する。そのうちの1/3が下気道疾患を起こすと報告されている。2年目から4年目においても下気道疾患を起こす比率は20%を超え、無視できるものではないが、その重症度は年齢を追う毎に減弱する。乳幼児期早期には肺炎と細気管支炎が多いが、徐々に気管支炎の病態を呈するものが増加してくる。初感染の病像として、上気道炎や気管支炎の場合でも症状は比較的強い。特に1歳以下では、中耳炎の合併がよくみられる。生後4週未満ではRSV感染の頻度は低いが、罹患した際には呼吸器症状を欠く非定型な症状をとることが多く、診断の遅れにつながる。この年齢では、突然死につながる無呼吸が起きやすいことも報告されており、注意が必要である。

潜伏期は2～8日、典型的には4～6日とされているが、発熱、鼻汁などの上気道炎症状が数日続き、その後下気道症状が出現してくる。発熱は初期症状として普通に見られるが、入院時には38℃以下になるか、消失していることが多い。咳も主要な症状であるが、持続、増悪する咳は下気道疾患への進展を示唆する。特に細気管支炎では喘鳴、陥没呼吸や呼吸困難がみられる。聴診上湿性、乾性ラ音が聞かれる。細気管支炎と肺炎の鑑別は必ずしも容易ではなく、またしばしば合併する。罹病期間は通常7～12日で、入院例では3～4日で改善してくるとされるが、ウイルスの排泄は持続し、ガス交換の異常も数週間続くと考えられている。

胸部レントゲン上では種々のパターンが見られる。もっとも典型的なのは間質性肺炎像と過膨張であるが、air-trappingが唯一の有意な所見であることもある。肺胞性陰影はRSVによる下気道疾患の1/4にみられるが、特に6カ月以下の乳児に多い。一般検査所見ではあまり特徴的なものではなく、白血球数は増加する例もあるが、RSV確定例の20%程度であり、白血球分画も一定の傾向はない。

RSVの再感染は普遍的に認められ、縦断的な調査では毎年6～83%の小児が再感染を経験していると報告されている。通常は軽症の上気道炎や気管支炎であるが、幼児では20～50%以上の症例で下気道疾患がみられる。成人ではいわゆる普通感冒を起こすのみであるが、特に、RSVに感染した小児を看護する保護者や医療スタッフでは、気管支炎やインフルエンザ様症状をきたし、より重症になることがある。これは、初感染児より排出される大量のウイルスに暴露されるためと考えられている。また、RSVは高齢者においても、急性のしばしば重症の下気道疾患を起こす原因として重要になりつつあり、特に、長期療養施設内での集団発生が問題とな

る。同様に、免疫不全者における院内感染事例では症状が重篤で、しかもある程度蔓延するまで診断がつかないことが多く、対策を困難にしている。

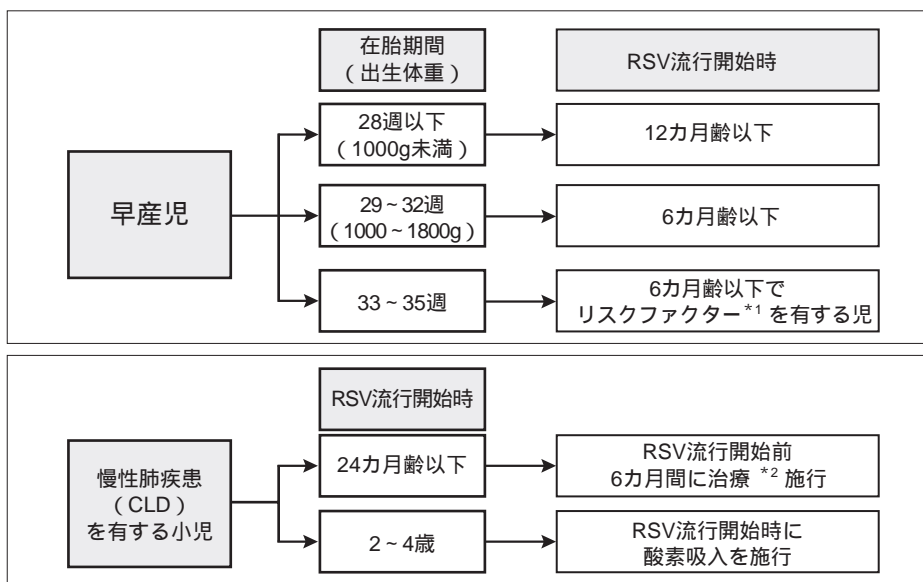
病原診断

病原体診断は、呼吸器分泌物よりRSVを分離するか、ウイルス抗原を検出することによりなされる。鼻腔洗浄液では鼻咽頭拭い液より分離率はよいとされるが、このウイルスは熱、凍結融解、pH、塩濃度、蛋白濃度などに不安定なため、適切な保存液を用い、氷冷して(4)迅速に搬送しなければならない。検体を受感性のあるHEp-2細胞やHeLa細胞に接種することにより、3~4日で合胞体の形態を示す特徴的な細胞変性効果を得ることができる。

近年、酵素抗体法や免疫クロマト法による抗原検出、あるいはPCR法による遺伝子検出での迅速診断法が可能となり、キットも市販されている。抗原検出による迅速診断キットとしては数種類が利用可能であるが、感度、特異度はいずれも70~90%で、臨床上有用と考えられる。

血清学的診断は補体結合抗体、酵素抗体法や蛍光抗体法、中和抗体などにより行われるが、臨床上の価値は高くない。これは、ペア血清が必要なこととともに、特に臨床上問題となる幼若小児では抗体の上昇が見られないことがあること、年長児の再感染では有意な抗体上昇を得られないことがあることによる。

表 . パリピズマブの適応 (日本小児科学会雑誌 106 : 1288, 2002)



*1 : 呼吸器疾患のある小児、RSV流行期にNICUを退院する小児、人口換気療法または長期酸素療法を受けた小児、退院後に託児所・保育所を利用する小児、受動喫煙に暴露される小児

*2 : 酸素吸入、利尿剤、コルチコステロイド、気管支拡張薬など

治療・予防

治療は基本的には酸素投与、輸液、呼吸管理などの支持療法が中心である。気管拡張剤およびステロイドの効果については多数の臨床研究がなされている。気管支拡張剤については、限られた効果にとどまるか、あるいは効果がなかったとする報告が多いが、効果があったとする報告もあり、一定の見解は得られていない。ステロイドについては、症例対照研究で効果がなかったとの報告がなされている。

米国で唯一治療薬として認可されているのはリバビリンであり、微小粒子のエアロゾルとして吸入にて用いられる。多数のプラセボ対照研究において、重症度の軽減と酸素飽和度の改善が認められているが、米國小児科学会では、ハイリスクの患者においてのみ考慮されるべきであるとしている。RSV感染の致死率は1～3%と報告されているが、状況によりかなりの差違があり、基礎疾患、特に心肺系疾患、免疫不全、低出生体重、そして低年齢などが致死率を上げる危険因子となる。1980年代の心臓に基礎疾患のある小児入院例の研究では、致死率37%とする報告がある。

予防のためのワクチン開発への努力は30年来続けられているが、過去の不活化ワクチンにおいて、接種者が非接種者よりも重症になるという失敗の経験もあり、依然として研究中である。現在利用可能な予防方法としては、ヒト血清由来の抗RSV免疫グロブリンと、遺伝子組み換え技術を用いて作成された、RSVの表面蛋白の一つであるF(Fusion)蛋白に対するモノクローナル抗体製剤であるパリーブズマブ(Palivizumab)がある。後者は日本においても、2001年1月に承認された。これは、RSV流行開始前から流行期の間、1回15mg/kgを1カ月毎に筋注することにより、予防効果が期待できる。日本小児科学会では、本製剤の適正な使用を目的として使用に関するガイドラインを作成している(表)。適応として表に示すように、早産児と慢性肺疾患を有する小児について投与を考慮すること、また、先天性心疾患を有する生後24カ月以下の乳幼児で、RSV流行開始時に心疾患の治療を受けている者、重度の免疫不全状態の小児、RSV院内感染事例で、適切な対策を実施しても制御できない場合などにおいては、根拠となるデータがないが、使用を考慮してもよいとしている。

院内感染は、主に患者との濃厚接触や分泌物に汚染された表面への接触によるので、予防には標準予防策と接触感染予防策が推奨される。可能であれば、患者の隔離とスタッフのコホーティングも有用である。ガウンとマスクの使用は対照研究では、厳重な手洗いに勝る効果は証明されていないが、院内感染率を低下させるとする報告もある。しかしながら、RSVは鼻および眼からも感染すると考えられており、通常の鼻と口を覆うマスクでは限られた効果しかないといわれる。

感染症法における取り扱い

RSV感染症は5類感染症定点把握疾患であり、全国約3,000の小児科定点医療機関から毎週報告がなされている。報告のための基準は以下の通りである。

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの

- ・病原体の検出
例、ウイルス分離 など
- ・抗原の検出
例、迅速診断キット など
- ・血清抗体の検出
例、中和反応、補体結合反応 など

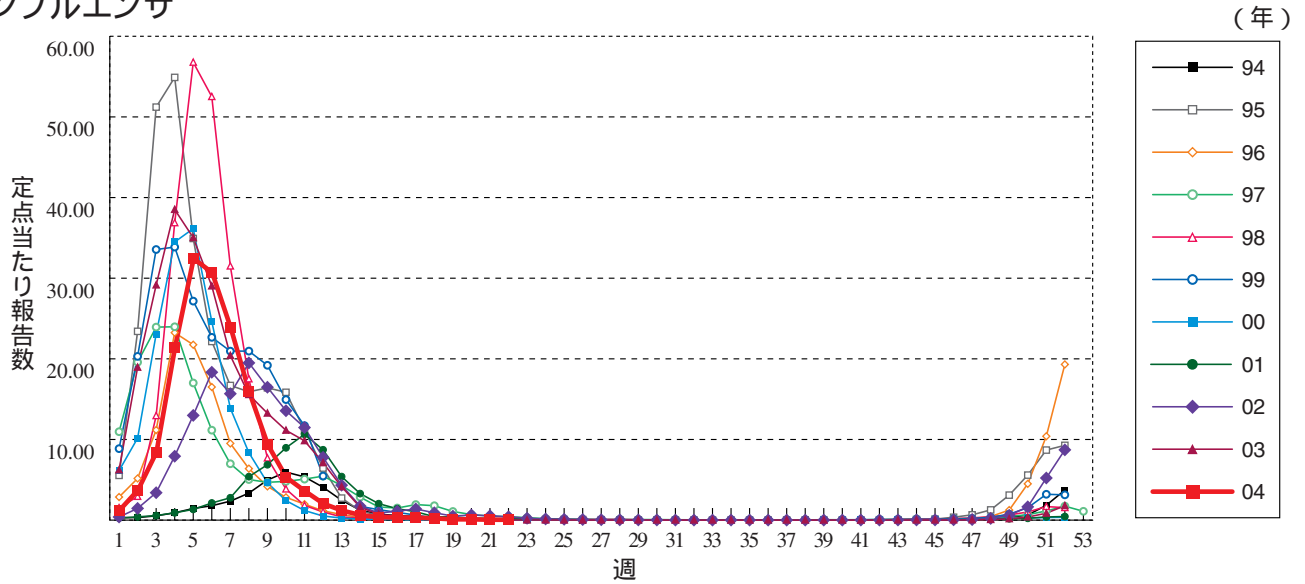
文献

- 1) Hall CB. In: Text book of pediatric infectious diseases 4th ed. WB Saunders 1998. 2084-2111.
- 2) 加瀬哲男、他 . 病原微生物検出情報 Vol.21 No.2 February 2000 .
- 3) 遠藤貞郎、他 . 病原微生物検出情報 Vol. 4 No.12 1983.
- 4) Meury S, et al. Eur J Pediatr. published at <http://link.springer.de/link/service/journals/00431/> on 23 April 2004.
- 5) Flores P, et al. Eur J Clin Microbiol Infect Dis. Published at <http://link.springer.de/link/service/journals/10096/> on 13 November 2003.
- 6) Wyder-Westh C, et al. Eur J Clin Microbiol Infect Dis. 22(12): 774-5, 2003.
- 7) 七種美和子、他 . 感染症学雑誌77(6): 443-450, 2003.
- 8) 日本小児科学会「パリピズマブの使用に関するガイドライン作成検討委員会」. 日本小児科学会雑誌106(9)1288-1292、2002.
- 9) American Academy of Pediatrics. In: Red Book 2000. Report of the committee on infectious diseases, 25th ed, 483-487, 2000.
- 10) American Academy of Pediatrics Committee on Infectious Diseases and Committee on Fetus and Newborn. Pediatrics. 112(6 Pt 1): 1442-6, 2003.

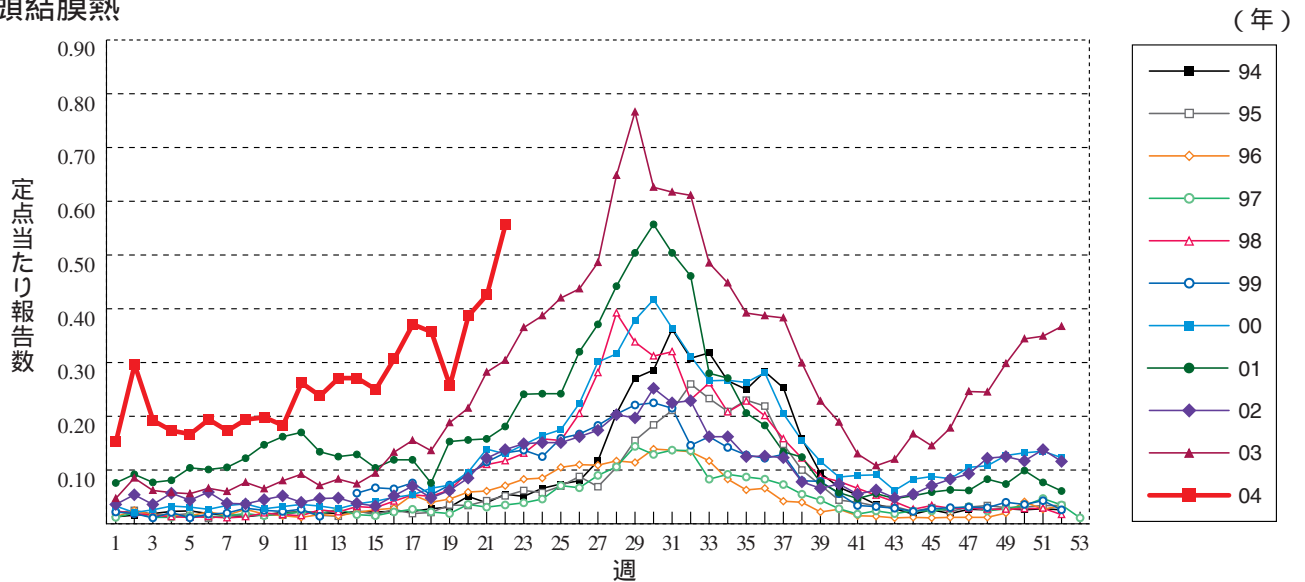
(国立感染症研究所感染症情報センター 谷口清州)

グラフ総覧(22週)

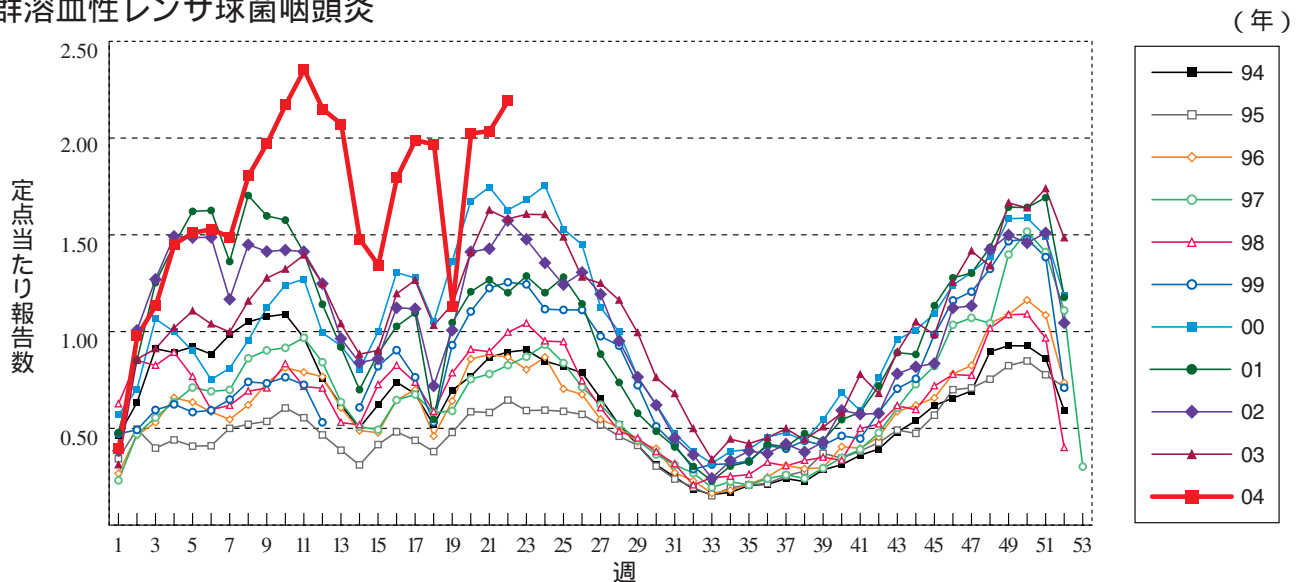
インフルエンザ



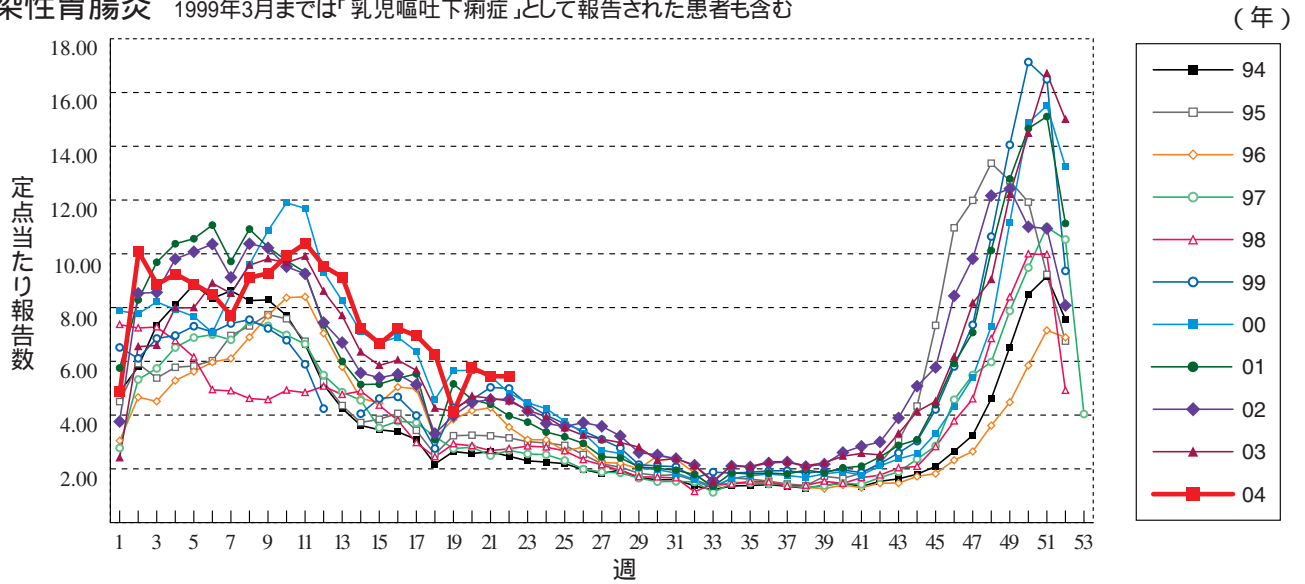
咽頭結膜熱



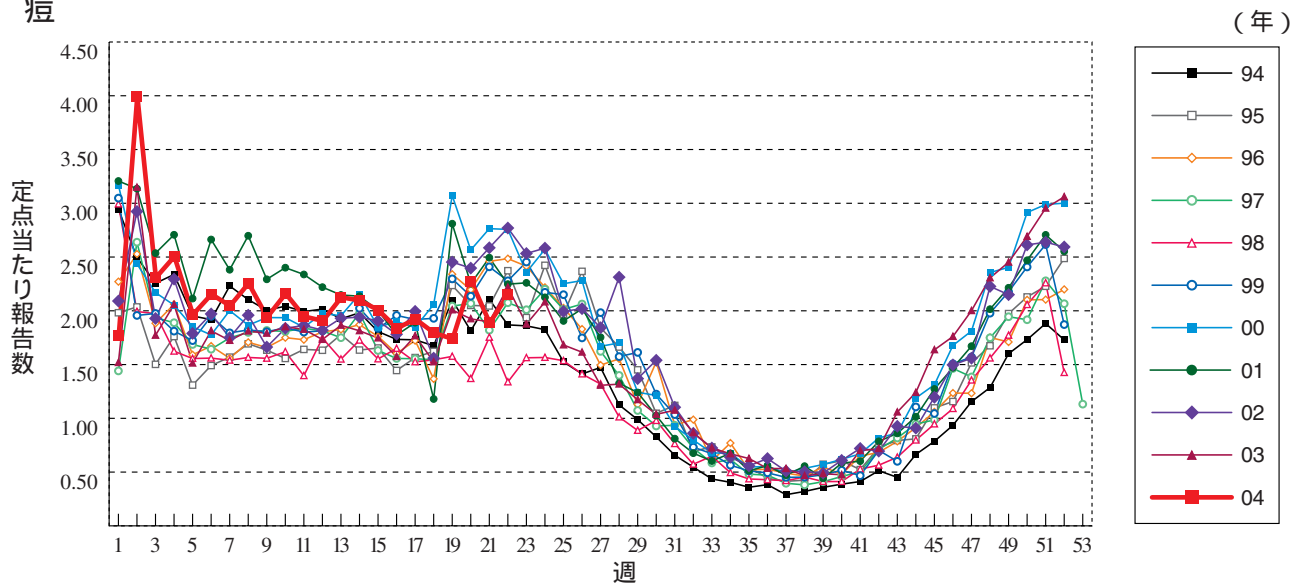
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



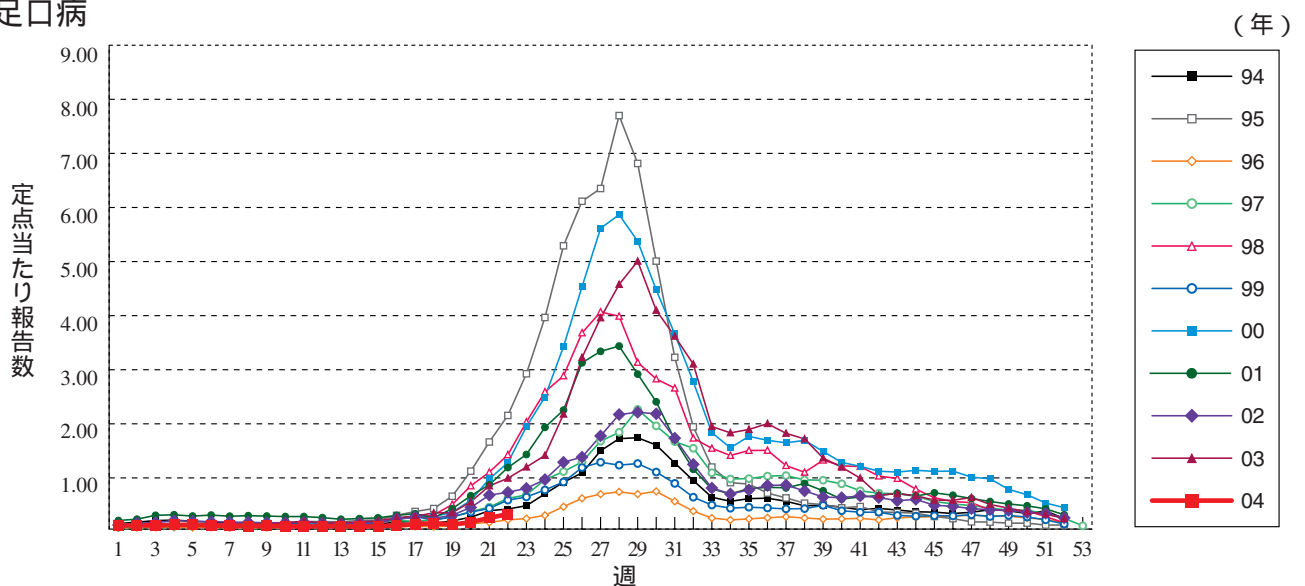
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



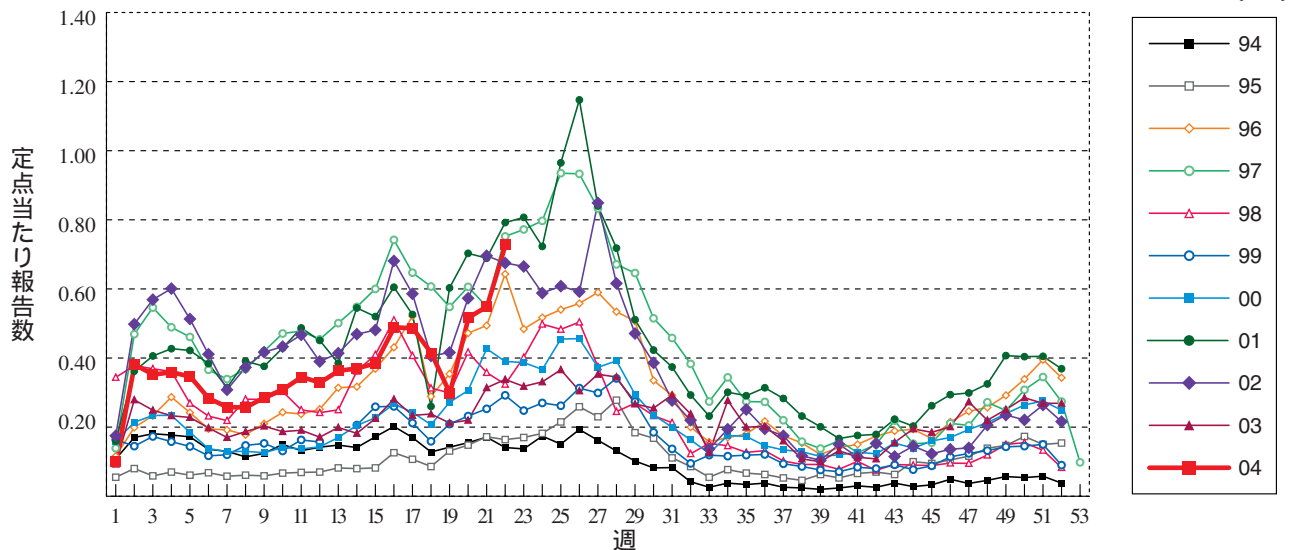
水痘



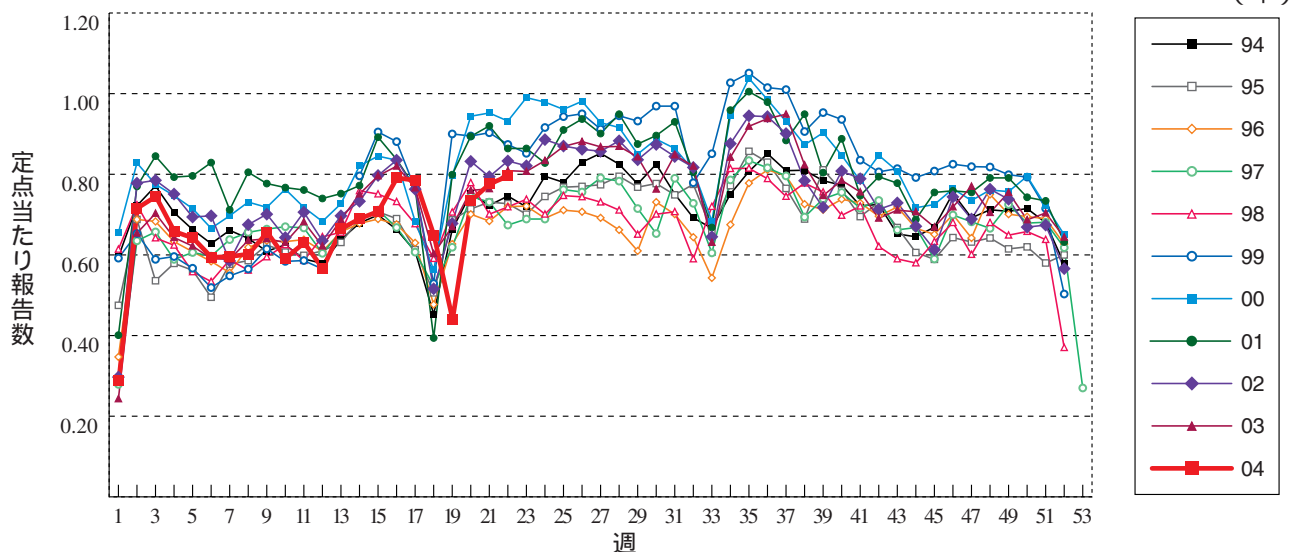
手足口病



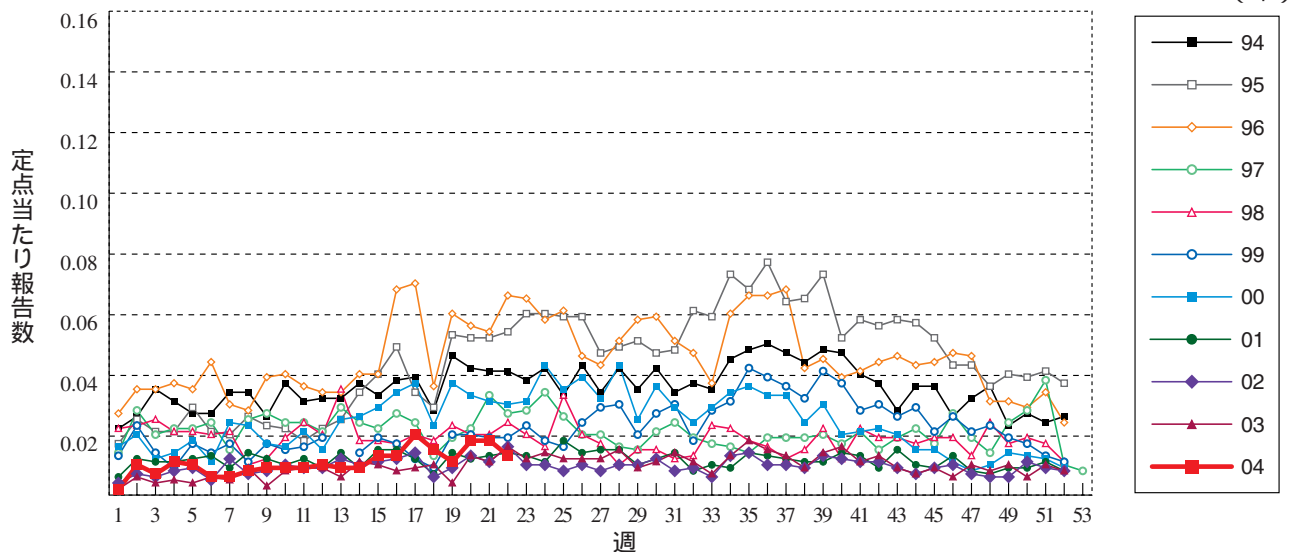
伝染性紅斑



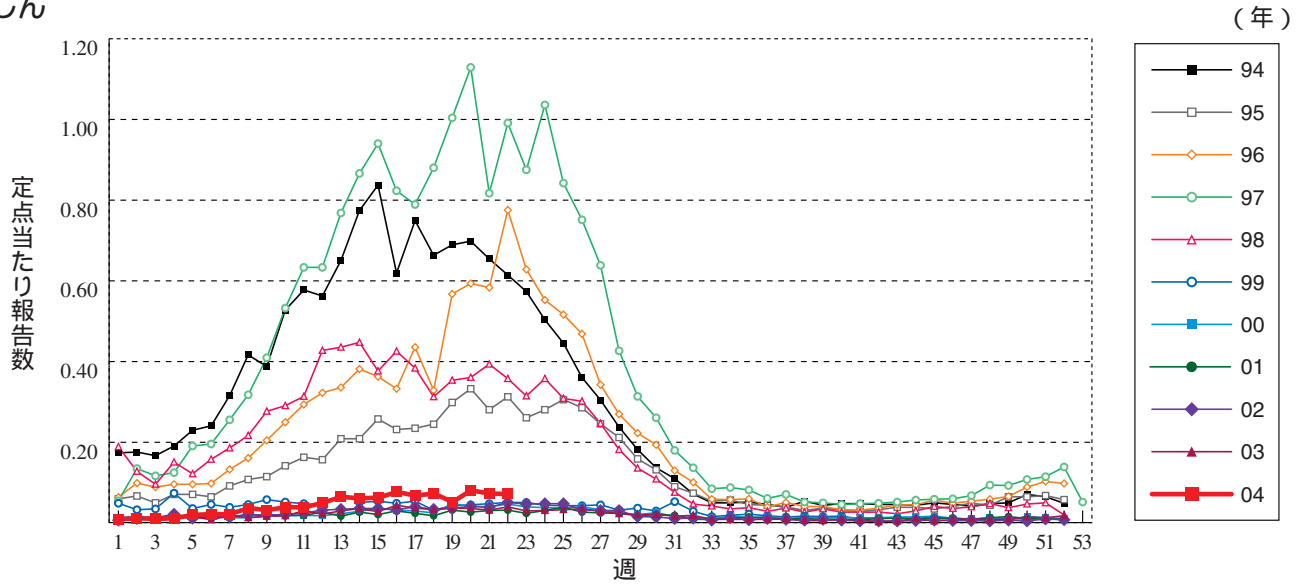
突発性発しん



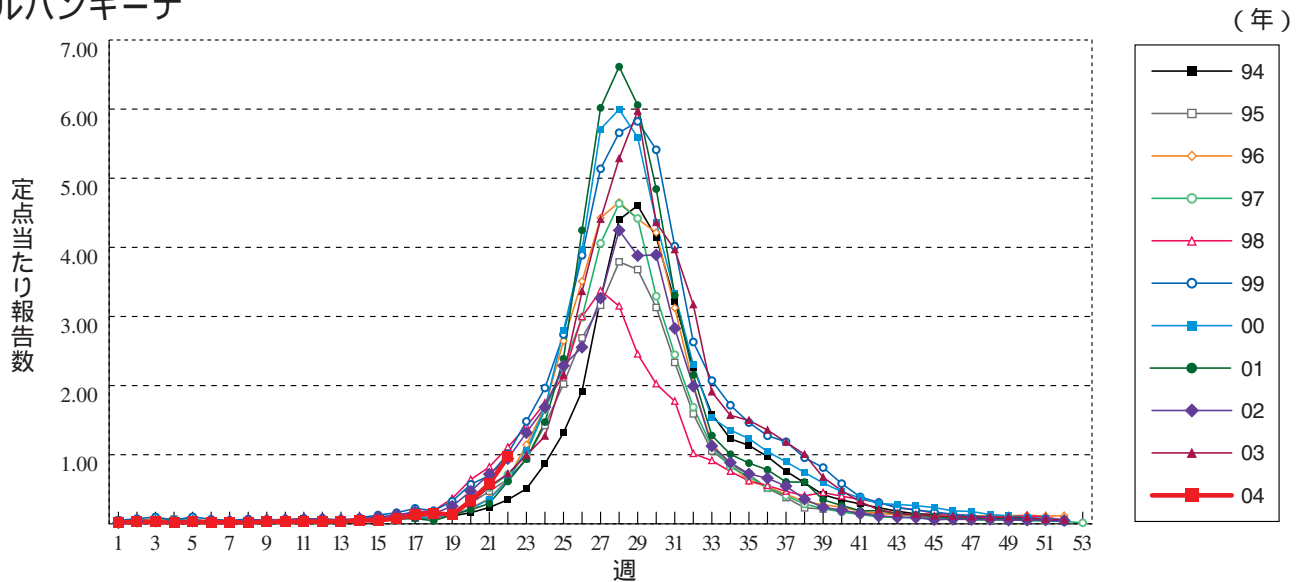
百日咳



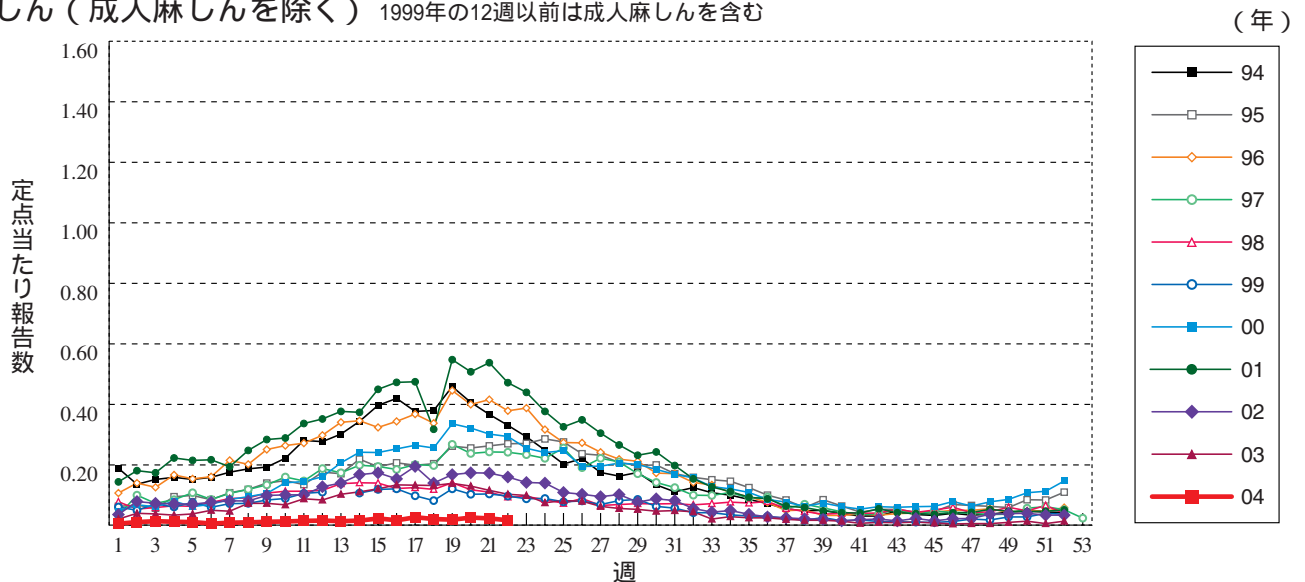
風しん



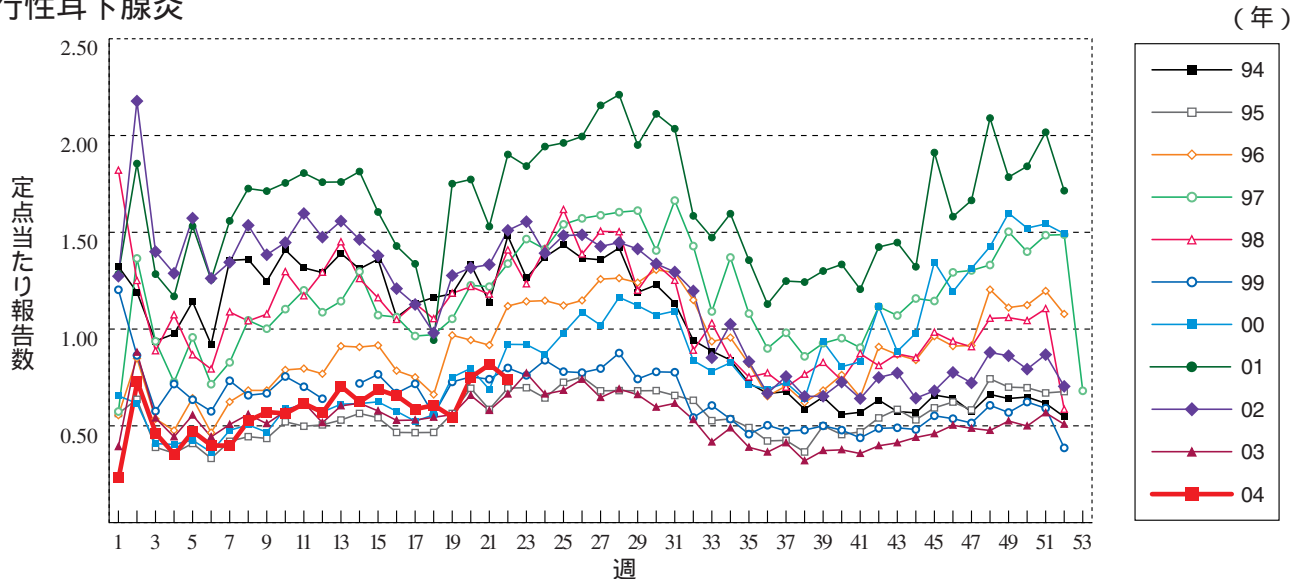
ヘルパンギーナ



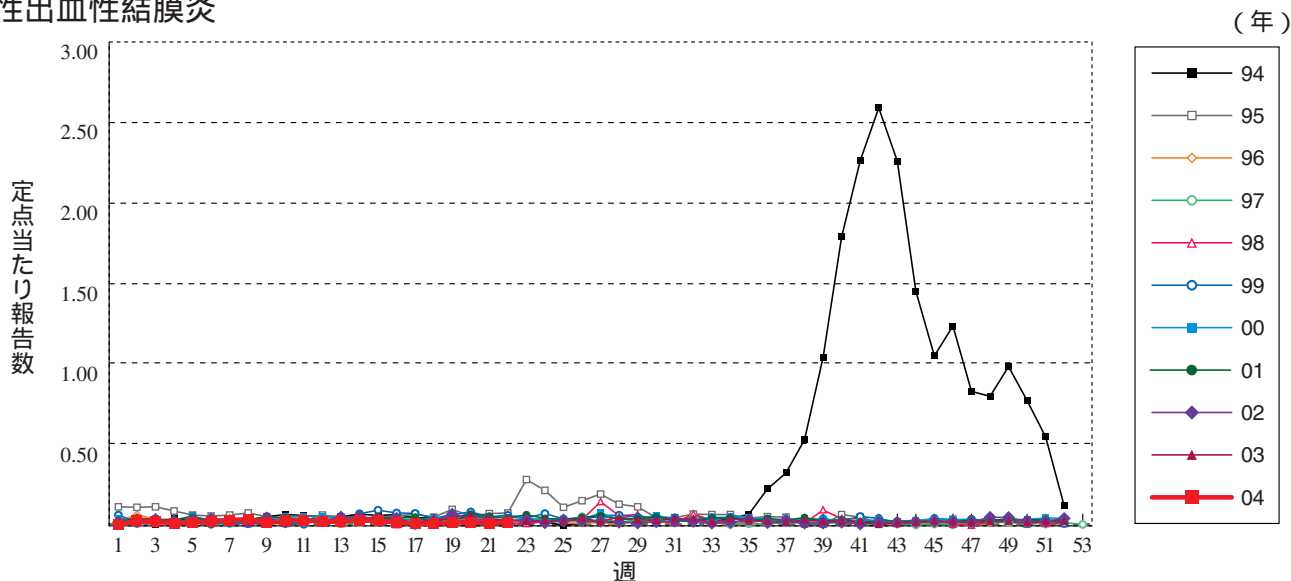
麻疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



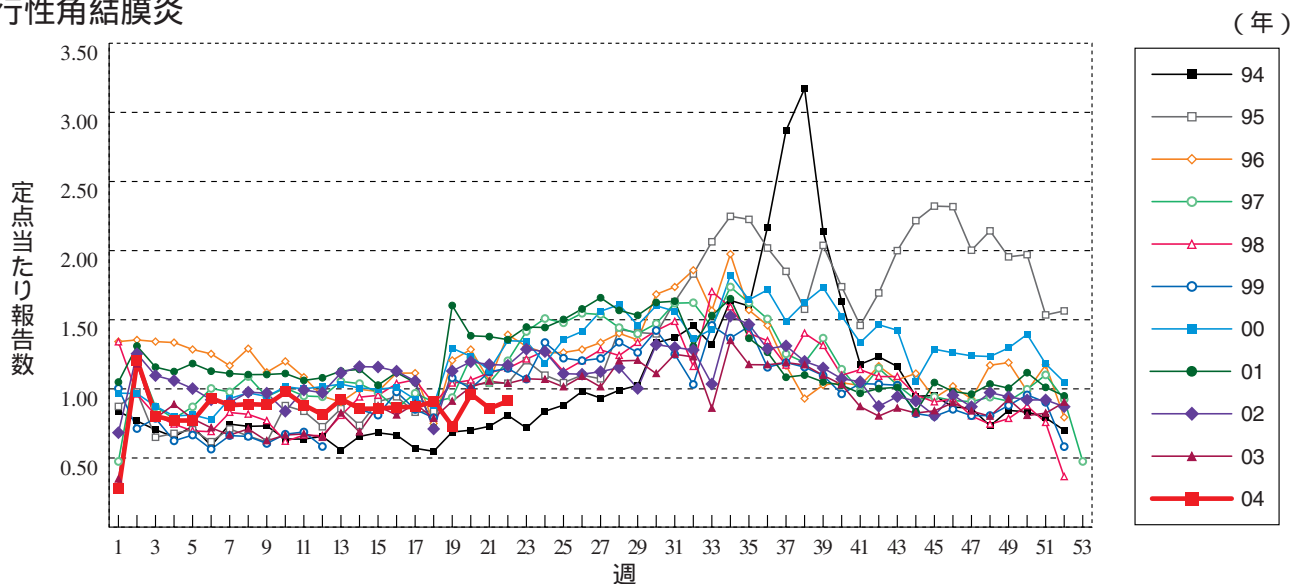
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

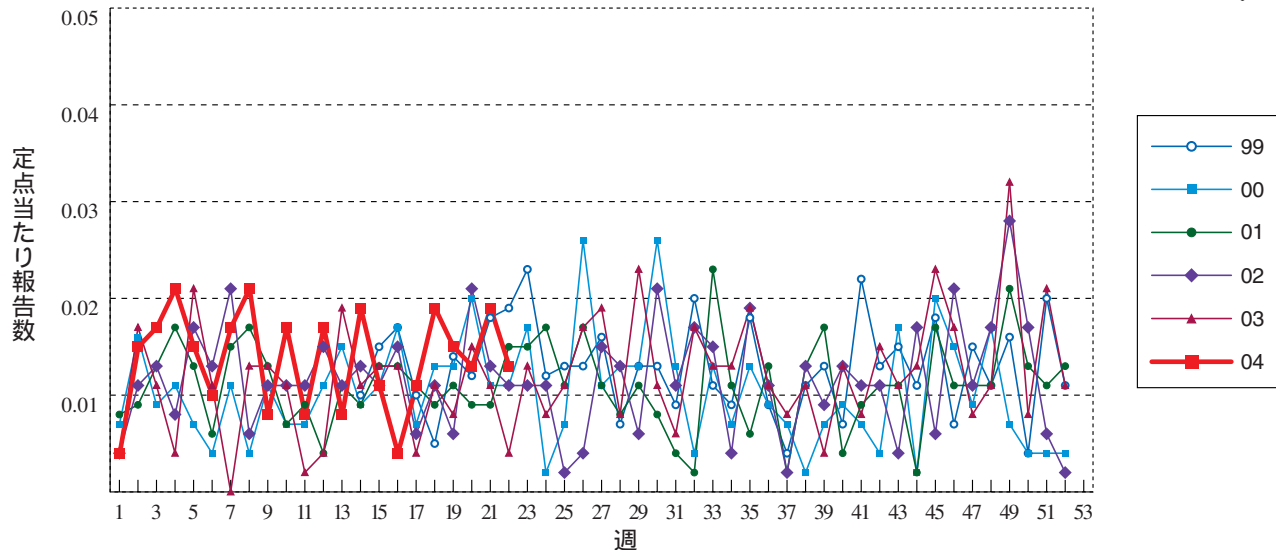


流行性角結膜炎



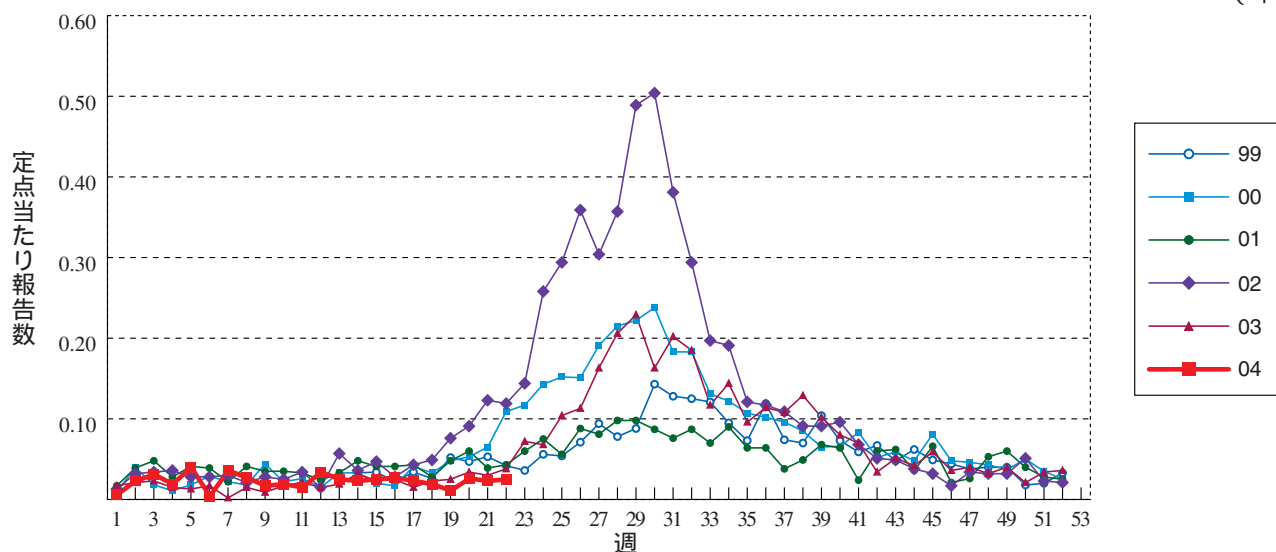
細菌性髄膜炎

(年)



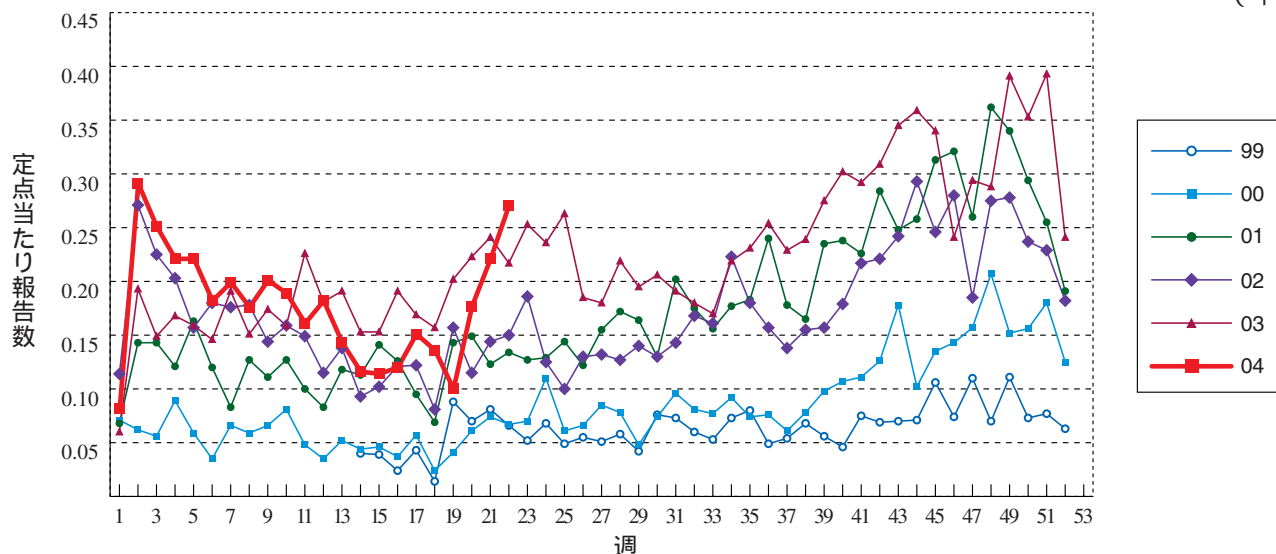
無菌性髄膜炎

(年)



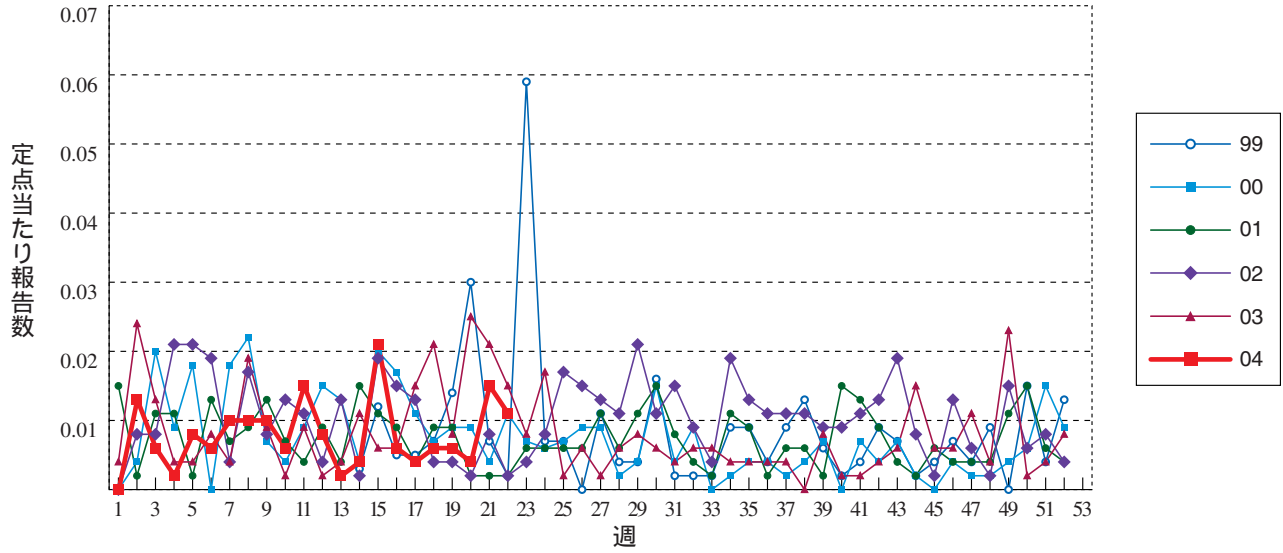
マイコプラズマ肺炎

(年)



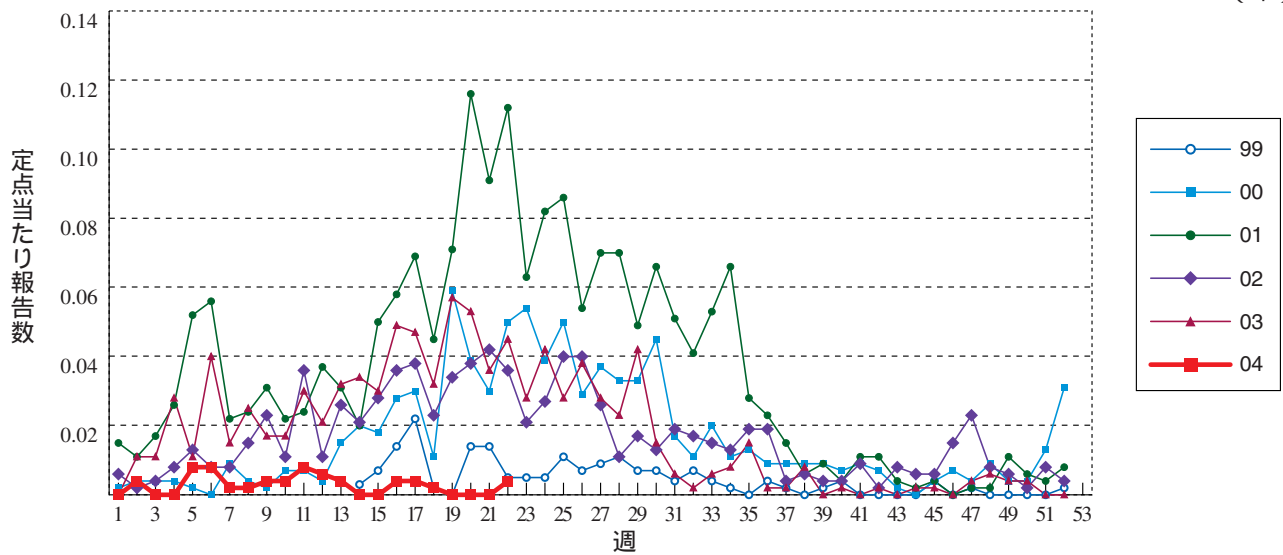
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





22週のデータ

注)表中の報告数は6月3日集計分であり、その後の報告は次週以降の累積に反映されます。表の最後の注釈を参照して下さい。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

平成16年22週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	6	188	1	27	3	32	
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	1	
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	1	-	
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	7	-	1	-	3	
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	11	1	3	-	4	
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	58	-	8	1	6	
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	2	-	1	
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	1	1	
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	11	-	-	-	3	
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	1	
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	1	-	-	
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	1	-	4	
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	21	-	3	-	1	
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-	
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2	
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	1	-	-	
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	1	
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年22週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	97	480	10	224	-	14	-	-	4	22	-	-	4	115
北海道	-	-	-	-	1	5	-	4	-	14	-	-	-	1	-	-	-	2
青森県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
岩手県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	1	2	-	5	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
秋田県	-	-	-	-	1	6	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	8	12	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
栃木県	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	1	18	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
千葉県	-	-	-	-	2	18	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
東京都	-	-	-	-	11	53	2	58	-	-	-	-	-	1	-	-	-	22
神奈川県	-	-	-	-	1	6	1	13	-	-	-	-	1	1	-	-	2	8
新潟県	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	4	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	2	21	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福井県	-	-	-	-	1	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
長野県	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
静岡県	-	-	-	-	-	4	1	12	-	-	-	-	3	3	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	18	-	17	-	-	-	-	-	1	-	-	1	4
三重県	-	-	-	-	2	18	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	2	4	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	-	-	-	-	6	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
大阪府	-	-	-	-	5	34	-	22	-	-	-	-	-	5	-	-	-	11
兵庫県	-	-	-	-	5	30	1	9	-	-	-	-	-	-	-	-	1	11
奈良県	-	-	-	-	1	9	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
和歌山県	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
鳥取県	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	25	59	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
広島県	-	-	-	-	4	18	3	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6
山口県	-	-	-	-	-	12	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
徳島県	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
香川県	-	-	-	-	-	16	-	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	1	4	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福岡県	-	-	-	-	7	17	-	8	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4
佐賀県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	4	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	1	9	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
大分県	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
宮崎県	-	-	-	-	2	7	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
鹿児島県	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
沖縄県	-	-	-	-	1	11	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年22週

	Q熱		狂犬病		クリプトスポリジウム症		クロイツフェルト・ヤコブ病		劇症型溶血性レンサ球菌感染症		後天性免疫不全症候群		コクシジオイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	2	-	-	1	4	-	66	2	30	11	404	-	1	-	28	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	8	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	9	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	5	-	-	-	1	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	16	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	3	1	4	1	14	-	-	-	1	-	-
東京都	-	-	-	-	1	4	-	4	-	5	4	163	-	-	-	9	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	1	-	28	-	1	-	1	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	1	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	16	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	10	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	21	-	-	-	1	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-
京都府	-	1	-	-	-	-	-	4	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	5	-	5	1	46	-	-	-	4	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	7	-	-	-	3	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	6	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	6	-	-	-	1	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年22週

	髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風しん症候群		炭疽		つつが虫病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		梅毒		破傷風	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	12	-	3	-	-	3	75	-	6	2	6	-	1	3	182	-	27
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
青森県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮城県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	1	6	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-
茨城県	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-
埼玉県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-
東京都	-	3	-	1	-	-	5	4	-	-	-	-	-	-	23	-	1	-
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
長野県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-
岐阜県	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-
愛知県	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	13	-	1	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26	-	1	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	1	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	-
岡山県	-	-	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	1	1	5	-	1	-	-
山口県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	8	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	4	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	11	-	1	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	10	-	2	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	1	-	-	3	-	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	1	29	-	-	-	-	-	2	-	3	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年22週

	バンコマイシン 耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス 肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発しんチフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	21	-	-	-	-	-	-	-	-	2	22	1	2	6	42
北海道	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2
秋田県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
茨城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	2
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	3
神奈川県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	4
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
大阪府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	2	3	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年22週

	重症急性 呼吸器症候群		痘 そ う		E型肝炎		ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)		A型肝炎		高病原性鳥 インフルエンザ		サ ル 痘		ニバウイルス 感染症		ポツリヌス症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	1	10	-	-	-	70	-	-	-	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	2	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年22週

	野 兎 病		リッサウイルス 感染症		レプトスピラ症		急性脳炎		バンコマイシン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	1	-	31	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
東京都	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

全数把握疾患表注釈

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正(施行日: 平成15年11月5日、IDWR週報2003年43号参照)により、全数把握疾患の対象疾患、分類、疾患名の記載方法が一部変更されました。

表でみる「重症急性呼吸器症候群」以降の14の疾患は新システムでの追加疾患、および変更疾患(「乳児ボツリヌス症」「ボツリヌス症」「定点疾患「急性脳炎」全数疾患「急性脳炎」)です。「ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)」は平成14年11月に追加された疾患です。

旧システムにおける「ウイルス性肝炎」に含まれていた「E型肝炎」「A型肝炎」が独立した疾患となり、新システムにおける「ウイルス性肝炎」はE型肝炎、A型肝炎を除く肝炎となります。

注)表の最後の注釈を参照して下さい。

報告数・定点当り報告数、疾病・都道府県別

平成16年22週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発しん		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	198	0.04	1693	0.56	6668	2.19	16542	5.44	6536	2.15	847	0.28	2212	0.73	2419	0.80	41	0.01
北海道	61	0.27	44	0.31	469	3.28	445	3.11	362	2.53	28	0.20	47	0.33	81	0.57	-	-
青森県	3	0.05	21	0.50	62	1.48	127	3.02	83	1.98	1	0.02	8	0.19	28	0.67	-	-
岩手県	-	-	1	0.03	69	1.86	94	2.54	75	2.03	2	0.05	22	0.59	14	0.38	-	-
宮城県	3	0.03	26	0.44	156	2.64	379	6.42	183	3.10	4	0.07	69	1.17	63	1.07	-	-
秋田県	3	0.05	12	0.34	89	2.54	248	7.09	43	1.23	-	-	3	0.09	31	0.89	-	-
山形県	-	-	23	0.77	166	5.53	246	8.20	45	1.50	2	0.07	27	0.90	21	0.70	1	0.03
福島県	1	0.01	61	1.27	73	1.52	429	8.94	147	3.06	4	0.08	19	0.40	46	0.96	1	0.02
茨城県	2	0.02	59	0.80	159	2.15	217	2.93	118	1.59	16	0.22	15	0.20	41	0.55	-	-
栃木県	-	-	9	0.20	103	2.24	196	4.26	78	1.70	-	-	31	0.67	38	0.83	-	-
群馬県	1	0.01	24	0.39	134	2.16	233	3.76	127	2.05	8	0.13	96	1.55	31	0.50	1	0.02
埼玉県	-	-	84	0.53	453	2.87	886	5.61	328	2.08	39	0.25	247	1.56	137	0.87	5	0.03
千葉県	2	0.01	85	0.65	342	2.61	517	3.95	349	2.66	27	0.21	186	1.42	124	0.95	2	0.02
東京都	-	-	53	0.37	192	1.35	568	4.00	161	1.13	7	0.05	136	0.96	100	0.70	-	-
神奈川県	1	0.00	166	0.81	424	2.07	803	3.92	475	2.32	23	0.11	263	1.28	179	0.87	2	0.01
新潟県	-	-	47	0.78	309	5.15	378	6.30	225	3.75	3	0.05	137	2.28	53	0.88	-	-
富山県	-	-	37	1.28	110	3.79	204	7.03	73	2.52	1	0.03	27	0.93	22	0.76	-	-
石川県	-	-	35	1.21	55	1.90	217	7.48	106	3.66	24	0.83	29	1.00	18	0.62	-	-
福井県	-	-	61	2.77	41	1.86	237	10.77	98	4.45	8	0.36	19	0.86	12	0.55	1	0.05
山梨県	-	-	-	-	81	3.24	78	3.12	21	0.84	-	-	6	0.24	7	0.28	-	-
長野県	38	0.44	3	0.05	136	2.47	371	6.75	172	3.13	13	0.24	52	0.95	44	0.80	-	-
岐阜県	1	0.01	54	1.02	60	1.13	85	1.60	153	2.89	4	0.08	20	0.38	34	0.64	2	0.04
静岡県	-	-	24	0.28	154	1.79	439	5.10	183	2.13	17	0.20	67	0.78	87	1.01	1	0.01
愛知県	6	0.03	80	0.44	299	1.64	472	2.59	311	1.71	38	0.21	122	0.67	137	0.75	7	0.04
三重県	-	-	17	0.38	103	2.29	296	6.58	108	2.40	15	0.33	6	0.13	41	0.91	-	-
滋賀県	-	-	28	0.85	47	1.42	172	5.21	53	1.61	4	0.12	6	0.18	26	0.79	-	-
京都府	-	-	4	0.05	114	1.50	494	6.50	125	1.64	14	0.18	22	0.29	37	0.49	1	0.01
大阪府	5	0.02	60	0.31	362	1.86	1225	6.28	361	1.85	47	0.24	127	0.65	128	0.66	3	0.02
兵庫県	1	0.01	68	0.53	207	1.62	889	6.95	299	2.34	243	1.90	89	0.70	86	0.67	2	0.02
奈良県	-	-	40	1.14	68	1.94	163	4.66	71	2.03	8	0.23	10	0.29	22	0.63	2	0.06
和歌山県	-	-	38	1.23	42	1.35	142	4.58	58	1.87	-	-	23	0.74	22	0.71	2	0.06
鳥取県	-	-	5	0.26	70	3.68	173	9.11	47	2.47	1	0.05	1	0.05	13	0.68	-	-
島根県	15	0.39	10	0.43	26	1.13	179	7.78	56	2.43	5	0.22	4	0.17	35	1.52	1	0.04
岡山県	-	-	32	0.59	75	1.39	278	5.15	86	1.59	7	0.13	27	0.50	38	0.70	-	-
広島県	37	0.31	74	0.99	114	1.52	551	7.35	93	1.24	3	0.04	40	0.53	53	0.71	-	-
山口県	9	0.13	33	0.67	110	2.24	510	10.41	85	1.73	7	0.14	6	0.12	60	1.22	-	-
徳島県	-	-	25	1.09	40	1.74	133	5.78	37	1.61	5	0.22	13	0.57	26	1.13	-	-
香川県	-	-	14	0.44	43	1.34	141	4.41	41	1.28	-	-	13	0.41	24	0.75	1	0.03
愛媛県	-	-	27	0.69	136	3.49	379	9.72	76	1.95	10	0.26	11	0.28	25	0.64	-	-
高知県	-	-	16	0.52	66	2.13	76	2.45	61	1.97	8	0.26	7	0.23	24	0.77	1	0.03
福岡県	4	0.02	30	0.25	339	2.83	1025	8.54	310	2.58	89	0.74	51	0.43	128	1.07	3	0.03
佐賀県	-	-	19	0.83	43	1.87	90	3.91	90	3.91	13	0.57	-	-	24	1.04	-	-
長崎県	3	0.04	14	0.32	93	2.11	205	4.66	70	1.59	8	0.18	11	0.25	33	0.75	-	-
熊本県	-	-	12	0.24	128	2.61	319	6.51	72	1.47	2	0.04	9	0.18	61	1.24	-	-
大分県	-	-	8	0.22	74	2.06	414	11.50	97	2.69	3	0.08	46	1.28	44	1.22	-	-
宮崎県	-	-	77	2.14	107	2.97	390	10.83	135	3.75	4	0.11	26	0.72	51	1.42	1	0.03
鹿児島県	-	-	25	0.44	85	1.49	411	7.21	137	2.40	14	0.25	7	0.12	42	0.74	1	0.02
沖縄県	2	0.03	8	0.24	40	1.18	18	0.53	52	1.53	68	2.00	9	0.26	28	0.82	-	-

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成16年22週

	風しん		ヘルパンギーナ		麻しん (成人麻しんを除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ 肺炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	217	0.07	2976	0.98	49	0.02	2252	0.74	14	0.02	579	0.91	6	0.01	12	0.03	128	0.27
北海道	-	-	13	0.09	2	0.01	94	0.66	-	-	14	0.48	-	-	-	-	-	-
青森県	3	0.07	11	0.26	-	-	24	0.57	-	-	4	0.36	-	-	-	-	3	0.50
岩手県	1	0.03	18	0.49	-	-	8	0.22	-	-	7	0.58	1	0.05	-	-	9	0.45
宮城県	1	0.02	10	0.17	1	0.02	36	0.61	-	-	2	0.18	-	-	-	-	10	0.83
秋田県	7	0.20	4	0.11	-	-	5	0.14	-	-	1	0.14	-	-	-	-	1	0.14
山形県	-	-	7	0.23	-	-	11	0.37	-	-	6	0.75	-	-	1	0.10	14	1.40
福島県	5	0.10	4	0.08	-	-	25	0.52	-	-	34	2.83	-	-	1	0.14	1	0.14
茨城県	2	0.03	23	0.31	4	0.05	9	0.12	2	0.13	35	2.19	-	-	-	-	8	0.73
栃木県	33	0.72	15	0.33	4	0.09	3	0.07	1	0.08	16	1.33	-	-	-	-	-	-
群馬県	33	0.53	8	0.13	-	-	60	0.97	-	-	36	2.57	-	-	-	-	6	0.60
埼玉県	13	0.08	47	0.30	7	0.04	167	1.06	1	0.03	31	0.84	-	-	-	-	-	-
千葉県	7	0.05	39	0.30	4	0.03	97	0.74	2	0.06	27	0.87	-	-	-	-	1	0.11
東京都	8	0.06	84	0.59	-	-	47	0.33	-	-	12	0.86	-	-	-	-	2	0.08
神奈川県	18	0.09	45	0.22	-	-	127	0.62	1	0.02	33	0.79	1	0.08	-	-	-	-
新潟県	4	0.07	6	0.10	3	0.05	55	0.92	-	-	1	0.11	-	-	-	-	17	1.42
富山県	-	-	37	1.28	-	-	23	0.79	-	-	4	0.57	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	72	2.48	-	-	6	0.21	-	-	6	0.86	1	0.20	-	-	1	0.20
福井県	1	0.05	122	5.55	-	-	32	1.45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	2	0.08	-	-	5	0.20	-	-	-	-	1	0.10	1	0.10	5	0.50
長野県	1	0.02	22	0.40	-	-	26	0.47	-	-	6	0.55	-	-	-	-	13	1.18
岐阜県	-	-	50	0.94	-	-	57	1.08	-	-	10	0.83	1	0.20	-	-	1	0.20
静岡県	-	-	67	0.78	-	-	109	1.27	-	-	10	0.50	-	-	-	-	5	0.50
愛知県	8	0.04	364	2.00	2	0.01	184	1.01	-	-	16	0.46	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	77	1.71	-	-	22	0.49	-	-	1	0.08	1	0.11	-	-	1	0.11
滋賀県	5	0.15	32	0.97	-	-	23	0.70	1	0.14	2	0.29	-	-	2	0.29	3	0.43
京都府	9	0.12	70	0.92	1	0.01	34	0.45	-	-	8	0.44	-	-	-	-	-	-
大阪府	1	0.01	372	1.91	1	0.01	210	1.08	1	0.02	14	0.29	-	-	1	0.07	-	-
兵庫県	5	0.04	271	2.12	16	0.13	126	0.98	-	-	40	1.14	-	-	-	-	1	0.08
奈良県	1	0.03	31	0.89	-	-	20	0.57	1	0.11	4	0.44	-	-	2	0.33	4	0.67
和歌山県	-	-	36	1.16	-	-	33	1.06	-	-	1	0.25	-	-	1	0.09	4	0.36
鳥取県	-	-	30	1.58	-	-	10	0.53	-	-	1	0.33	-	-	-	-	3	0.60
島根県	-	-	24	1.04	-	-	24	1.04	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.13
岡山県	-	-	29	0.54	-	-	27	0.50	-	-	9	0.75	-	-	-	-	1	0.20
広島県	1	0.01	91	1.21	-	-	59	0.79	1	0.05	16	0.80	-	-	1	0.05	4	0.21
山口県	-	-	43	0.88	-	-	98	2.00	-	-	7	0.78	-	-	-	-	1	0.11
徳島県	3	0.13	37	1.61	2	0.09	5	0.22	-	-	2	0.50	-	-	-	-	-	-
香川県	1	0.03	62	1.94	1	0.03	7	0.22	-	-	3	1.00	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	208	5.33	-	-	24	0.62	-	-	11	1.57	-	-	-	-	2	0.33
高知県	-	-	21	0.68	-	-	20	0.65	-	-	5	1.67	-	-	-	-	2	0.22
福岡県	16	0.13	128	1.07	1	0.01	178	1.48	1	0.04	13	0.50	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	6	0.26	-	-	37	1.61	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
長崎県	1	0.02	76	1.73	-	-	10	0.23	1	0.13	9	1.13	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	123	2.51	-	-	21	0.43	1	0.11	5	0.56	-	-	-	-	2	0.13
大分県	13	0.36	33	0.92	-	-	16	0.44	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	1	0.03	76	2.11	-	-	19	0.53	-	-	-	-	-	-	1	0.14	1	0.14
鹿児島県	8	0.14	25	0.44	-	-	13	0.23	-	-	9	1.29	-	-	-	-	-	-
沖縄県	7	0.21	5	0.15	-	-	6	0.18	-	-	108	10.80	-	-	1	0.14	-	-

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成16年22週

	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻しん		RSウイルス 感染症
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	
総 数	5	0.01	2	0.00	29
北海道	-	-	-	-	1
青森県	-	-	-	-	...
岩手県	-	-	-	-	1
宮城県	2	0.17	-	-	3
秋田県	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	...
栃木県	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	...
埼玉県	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	1	0.11	-
東京都	-	-	-	-	8
神奈川県	-	-	-	-	6
新潟県	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	...
石川県	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-
山梨県	2	0.20	-	-	...
長野県	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-
大阪府	1	0.07	-	-	2
兵庫県	-	-	1	0.08	...
奈良県	-	-	-	-	...
和歌山県	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	...
広島県	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	3
徳島県	-	-	-	-	1
香川県	-	-	-	-	...
愛媛県	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	...
福岡県	-	-	-	-	4
佐賀県	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	...
熊本県	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	...
宮崎県	-	-	-	-	...
鹿児島県	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	...

定点把握疾患表注釈

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正(施行日:平成15年11月5日、IDWR週報2003年43号参照)により、定点把握疾患の対象疾患、分類、疾患名の記載方法が一部変更されました。

改正により「RSウイルス感染症」が追加されましたが、ゼロ報告も含めて報告自体がなされていない都道府県(...)が多く見られ、その報告はまだ十分ではありません。そのため、「感染症週報」の情報還元としては、報告数のみの掲載とします。宜しく御理解ください。

感染症週報 第6巻 第22号 平成16年6月11日発行
発 行: 国立感染症研究所

厚生労働省健康局結核感染症課
厚生労働省大臣官房統計情報部

事務局: 国立感染症研究所感染症情報センター
〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
T E L : 03-5285-1111
F A X : 03-5285-1129

U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
< 国立感染症研究所 感染症情報センター >
<http://www.mhlw.go.jp/>
< 厚生労働省 >
<http://www.forth.go.jp/>
< 旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所) >

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上に訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。